

千葉大学工学同窓会々報 51

2024



情報・データサイエンス学部の看板掲上

【工学部総合工学科】

建築学コース

都市工学コース/都市環境システムコース

デザインコース

機械工学コース

医工学コース

電気電子工学コース

物質科学コース

共生応用化学コース

情報工学コース

【情報・データサイエンス学部 情報・データサイエンス学科】

データサイエンスコース

情報工学コース

創立100周年記念

式典・講演会・祝賀会開催

※詳しくは29ページをご覧ください。

千葉大学工学同窓会

ホームページ <https://chiba-kougaku-dosokai.jp/>



会長挨拶

工学同窓会会長 原 正樹 MASAKI HARA

卒業年／昭和52年（1977年） 千葉大学工学部工業意匠科卒業
昭和54年（1979年） 千葉大学大学院工学研究科修士課程修了

工学同窓会会長を拝命して、2年目になります。どうぞよろしくお願ひします。

工学同窓会の活動は、幹事長の佐藤公信教授を中心に、多くの先生がたの協力で進めています。今年から情報・データサイエンス学部が新設されました。この学部は「工学同窓会（第Ⅷ部会）」に加入し、ともに歩んでいくことが6月の総会で承認されました。同窓会則も改定され、名誉副会長に情報・データサイエンス学部長の塩田茂雄先生を迎えることとなりました。名誉会長は引き続き工学部長の伊藤智義先生です。

また、今年12月には、100周年の記念イベントをけやき会館で実施する予定で、同窓会の立場から支援していきたいと考えています。2021年の予定でしたが、感染症の影響で延期になっていました。100年史とあわせてぜひご期待ください。

今年の総会では同窓会から一部支援している学生支援プロジェクト（フォーミュラプロジェクト、ロボコン、卒業設計展、CUAD、意匠展）の成果を報告していただきました。授業以外の活動として学生の自由で意欲的な活動を感じることができました。「何かワクワクする」成果をいっそう期待していきたいと思ひます。

私は、1979年に工学研究科を修了し三菱電機株式会社で工業デザイン分野を中心に活動、また、2011年に広告代理店に移り、様々なメディアをクロスして活用しコミュニケーションをどうつなげ、どう伝えていくかというアプローチに取り組みました。工業デザインだけでなく使いやすさ、わかりやすさのデザイン、さらには製品力やブランド力の向上にも関わってきました。

元デザイナーとして、日本人の習慣や文化、感覚やことばなどはとても繊細で素敵だと思ひます。日本には「もったいない」という言葉があり、この言葉は、ノーベル平和賞のケニアの環境保護活動家 Wangari Muta Maathai（ワンガリ・マータイ）さんがそのまま「MOTTAINAI」として、世界中に広げました。現在各企業が積極的に取り組んでいるSDGsも、古くからの日本人の知恵と現代科学をクロスさせてうまく使っているような気がします。私の趣味の1つである金継ぎも「もったいない」からくる伝統的なリユースの概念です。ただ、単に壊れたものを修理して使うだけでなく修理した部分に金や銀などで装飾を加え、新たな美を生み出すという日

本的で繊細な伝統技法です。日本で15世紀に始まったとされますが、外国人にも人気があると伺いました。「継ぐ」という言葉には「あとを受けて続ける」「つなぎ合わせてひと続きにする」などの意味があり、自分の大切なものを、つなぎ合わせて後世に残していくと言ったニュアンスでしょうか。大変奥深く、面白く、はまっています。日本固有の概念が世界に誇れる考え方になっている例は少なくないと思ひますが、日本人の知恵を次世代に引き継いでいくことが重要と思ひています。

話は変わりますが、2021年から、新型コロナウイルス感染症の影響でリアルに会えなくなったので大学時代のバンド仲間とオンラインセッションを始めました。オーディオインタフェースをパソコンにつなぎ、インターネットを介してリアルタイムにセッションをすることができます。関西など、遠くにいるメンバーとも通信の遅延をほとんど感じることなくタイミングを合わせバンド練習ができるようになりました。学生時代の仲間と、再びつながるのは楽しいものです。

千葉大学は2024年、創立75周年を迎えます。また、前述の通り工学系学部は2つの学部となり、さらにユニークな活動が予感されます。次の100年につなげていっそうの発展を期待しています。

今年の総会で同窓会年会費を2,000円に値上げすることを承認していただきました。収入は学生の入会金（616万円）、有志からの寄付金240万円、同窓生の年会費（270万円）などが主たるものですが、年会費の集め方にはまだ努力の余地があるものと感じています。大先輩の方で、同窓会費は卒業当時に払い会費は終身だと聞いていたとおっしゃる方がいらっしゃいました。平成5年度（1993年）の総会で会則が改正され、平成6年度より現在のように年会費はすべての卒業生に、毎年納付をお願いすることになりました。今年10月には郵便料金の値上げもあり会報の郵送にはかなりの出費増が懸念されます。郵送に代わる仕組みも考えないといけなと思ひますが、まずはできるだけ多くの同窓会員の方が、年会費や寄付を納入しやすい環境作りに取り組んでいきたいと思ひます。

まとまりのない文章となってしまいましたが、最後に工学同窓会活動に対する同窓の皆様方のご理解に感謝し、一層のご支援とご協力をお願いいたします。

■経歴

1977年3月	千葉大学工学部工業意匠科卒業
1979年3月	千葉大学大学院工学研究科修士課程修了
1979年4月	三菱電機株式会社 入社 デザイン研究所
2007年4月	同 デザイン研究所 所長
2011年4月	株式会社 アイプラネット 取締役、2016年 専務取締役
2018年4月	東京電機大学 大学院未来科学研究科情報メディア学専攻 非常勤講師（2023年度まで）



名誉会長挨拶

千葉大学工学部長 伊藤 智義 TOMOYOSHI ITO

昭和37年 北海道札幌市生まれ
平成3年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程修了
平成4年 同 博士課程中退
平成6年 博士（学術）（東京大学）

教職員の方々に支えられて、工学部長として2年目を迎えることができました。6月1日には工学同窓会総会及び懇親会を、久しぶりに対面で開催頂きました。総会では有意義な議論が行われ、懇親会では楽しい時間を過ごすことができました。参加された中に、20年以上前になりますが、千葉大学着任時の私の授業を受けていた方がおられ、当時のことが昨日のこのように思い出されました。振り返れば、長いような短いような教員人生を歩んでいます。

その間、国立大学は大きく変わりました。千葉大学工学部も改組が続きました。私が着任した1999年10月は、都市環境システム学科ができ、2学科ずつが合体した大学科の時代で、私は電子機械工学科に異動してきました。2004年にはメディカルシステム工学科の創設を担当し、2年間メディカルシステム工学科に所属しました。その後、大学科が再び元の学科に戻る形で電気電子工学科の所属になり、現在は工学部総合工学科（一学科制）の電気電子工学コース担当となっています。

名称が変わってしまった学科も多くあります。時代の流れとはいえ、卒業した学科名がなくなってしまうことには一抹の寂しさを感じます。特に千葉大学工学部は全国でもユニークな学科が多く存在していたので、なおさらかもしれません。私自身も千葉大学ではありませんが（すみません）、卒業した学科は改組でなくなっています。

かつては工学部一部局だったのですが、フロンティア医工学センターができ（医工学コース）、墨田キャンパスとともにデザインリサーチインスティテュート（デザインコース）が開設され、現在は工学研究院（都市工学コース、建築学コース、機械工学コース、電気電子工学コース、物質科学コース、共生応用化学コース）と合わせて3部局で工学部を構成しています。工学部はまだ戦略的に動いている状況ですが、千葉大学全体ですとバーチャルなセンターも含めて11学部に対して部局数が31に及んでおり、少し懸念しているところです。

本年4月、工学部情報工学コースは、データサイエンスによる社会的課題解決を目指して発展的に解消し、情報・データサイエンス学部設置に至ったことは良いニュースだと思っています。時代が求めるDX化を推進していく原動力と期待され、工学部もサポートを惜しまない協力体制を維持していきたいと考えています。

3年前に100周年を迎えた工学部の記念事業も、当時の工学部長佐藤之彦先生を中心に進捗しています。工学同窓会のご協力を得て、記念誌の発行や記念祝賀会の準備が進んでいます。100周年記念の際にはぜひ皆様にお目にかかれれば幸いです。今後とも、工学同窓会の皆様のご支援を賜りたく、どうぞよろしく願い申し上げます。



名誉副会長挨拶

千葉大学情報・データサイエンス学部長 塩田 茂雄 SHIGEO SHIOTA

昭和38年生まれ
昭和63年 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修了（理学修士）
平成10年 工学博士（東京大学）

本年度より、工学部総合工学科情報工学コースは発展的解消となり、「情報・データサイエンス学部」が設置されました。学部長に就任いたしました塩田茂雄と申します。

情報・データサイエンス学部は、工学部から情報工学コースの教員を中心にデザインコースの教員も加わり、学内組織からは国際教養学部、看護学研究科が、学外組織からは医療系の教員・研究者等多方面から志を一つにして構成された教員組織です。同時に、大学院3年博士後期課程の「情報・データサイエンス学府」も発足しております。新しい学部とはいえ、もともとは情報工学コースであり、学年進行の同コース2、3、4年次学生も在学しています。それらの経緯から本学部1年生も工学同窓会の仲間として加わることになりました。

データサイエンスは、統計学や機械学習などを駆使して、膨大なデータから価値ある知見を導き出し、社会問題やビジネス上の課題の解決に繋げる学問とされています。一方、データサイエンスの実現のためには、プログラミング、アルゴリズム、データベース、画像工学、情報通信などをはじめとする情報工学技術が不可欠です。従来、工学部情報工学コースでは、情報工学技術の教育に加え、データサイエンスの基礎となる統計学や機械学習などに関する教育

を行ってきました。情報・データサイエンス学部では、これにデータサイエンスの社会応用に関する教育プログラムを追加し、データサイエンスとそれを支える情報工学技術の両方に精通した人材育成を目指します。

情報・データサイエンス学部の令和7年4月入学の入学者選抜は、一般選抜（前期日程）70名と学校推薦型選抜30名で行います。更に学校推薦型選抜30名の中に、15名の女子枠を設けます。これは、男性と異なる視点を持ち、柔軟な思考と高いコミュニケーション能力を持つ女性のデータサイエンス人材を増やすことを意図した取り組みです。従来、工学部情報工学コースでは女子学生の比率は10%を常に下回っていました。この入試制度改革により、良い意味で、従来の情報工学コースとは雰囲気異なる学部となることを期待しています。

近年、社会のあらゆる分野でデータが活用され、データサイエンスは大変注目を集めています。この流れを受けて設置された多くのデータサイエンス学部が文理融合的なものに対し、千葉大学の情報・データサイエンス学部は、卒業時に学士（工学）の学位が授与される工学系の学部です。今後とも、工学同窓会の皆様のご理解、ご支援を賜りたく、どうぞよろしく願い申し上げます。

建築学コース

■ 建築学コースの近況

2024年度の建築学コースでは、学部生312名（1年生73名、2年生75名、3年生71名、4年生93名）、大学院生131名（博士前期課程1年生56名、2年生56名、博士後期課程19名）が所属しています。また工学部10号棟の耐震改修・断熱改修を含む全面改修工事に伴い、2023年10月から10号棟に居室を持つ教員や研究室は学際研究棟（旧薬学部1号棟）に、製図室も楓ホール（旧薬学部講堂）に一時移転しています。

■ 近年の環境系・構造系科目の紹介

昨年度の会報では、近年の設計科目を紹介しました。

建築においては設計だけでなく環境系科目（環境・設備）、構造系科目も重要です。基本的な部分はおさえつつも、独自の科目や授業内容を展開しているものもあります。また、建築構法や建築生産について扱った科目があるのも千葉大ならではの内容です。

現在、建築学コースで開講されている環境系・構造系科目は以下の通りです。

【環境系科目】

建築環境計画Ⅰ	2年前期	必修科目
建築環境計画演習	2年前期	
建築設備計画Ⅰ	3年前期	
建築環境計画Ⅱ	3年前期	選択科目
建築環境計画Ⅲ	3年後期	
建築設備計画Ⅱ	3年後期	

【構法・生産系科目】

建築構法	2年前期	選択科目
建築情報処理	3年後期	
建築施工	3年後期	
建築法規・行政	3年後期	
建築生産設計	4年前期	

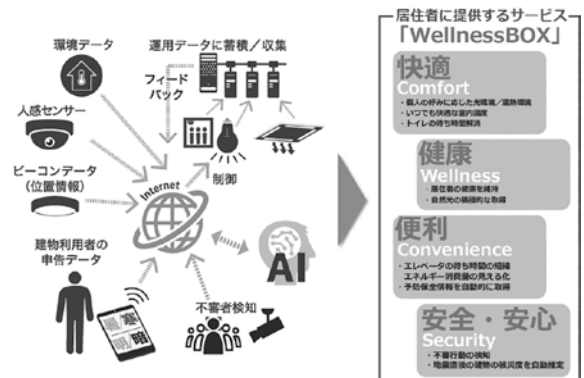
【構造系科目】

構造力学Ⅰ・同演習Ⅰ	1年後期	必修科目
材料力学・同演習	2年前期	
構造力学Ⅱ・同演習Ⅱ	2年後期	選択科目
建築材料	2年後期	
構造設計Ⅰ	2年後期前半	
構造設計Ⅱ・同演習Ⅱ	3年前期	
荷重外力論	3年前期前半	
構造耐力論	3年前期後半	
材料・構造実験	3年前期	
火災安全工学	3年後期	
構造設計Ⅲ・同演習Ⅲ	3年後期	
基礎地盤工学	3年後期	
建築振動論・同演習	4年前期	
建築構造デザインⅠ	4年前期前半	
建築構造デザインⅡ	4年前期後半	

科目の一部を下記に紹介いたします。

・建築設備計画Ⅱ（3年後期）

一般的な大学の建築学カリキュラムでは空調・給排水・照明・音響などの建築設備は一つの科目で教えています。千葉大学でも建築設備計画Ⅰがそれに該当します。本学の建築学カリキュラムのユニークな点としては、電気設備に焦点を当てている本科目も開講していることです。本科目では、建物内の情報通信設備やそれらを活用した空調設備や照明設備の高度な制御技術を講義しています。近年のIoT技術の進歩によって、センサ情報を活用して、建物管理者や利用者一人ひとりのウェルネス向上を含む、快適、健康、便利、安全・安心な付加価値の高いサービスを提供することが実現できています（下図参照）。なお、本科目の講義は大手ゼネコンで電気設備を担当している実務者（大林組・小島義包先生）にご担当いただいています。



・建築構法（2年前期）

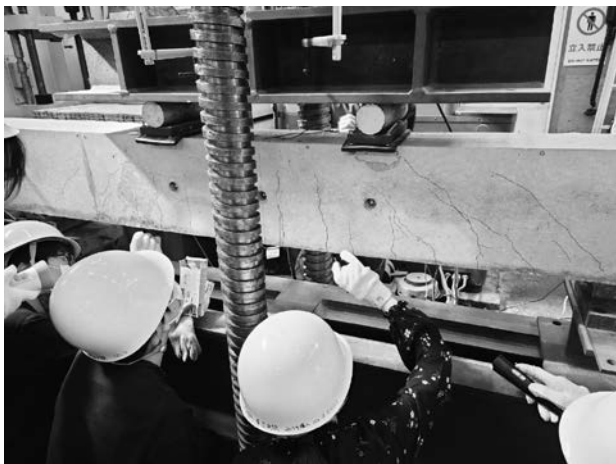
建築構法は部材の納まりを具体的に理解することを目的とする講義です。他大の先生方との共著の教科書を使っていますが、この教科書には研究室の大学院生らと協力して制作した3DCGの図版を400点ほど提供しています（下図参照）。建築の納まりを写真やスケッチよりも説明的に表現することを目指しました。



設計課題での学生らの図面に建築らしさが少しでも表現されることを狙って、数年前から2年前期に開講時期を早めています。

・材料・構造実験（3年前期）

材料・構造実験は、鉄筋コンクリートの梁を学生達自身で作成した後、その梁を破壊し構造物の壊れ方を体験的に学ぶ授業です。履修者は全体の半数以下ですが、構造系志望の学生以外にも多く参加しています。この授業は、1980年代に始まり中断期間もありましたが、2007年から構造実験Ⅱとして再開し、講義名変更を経て現在に至ります。読者の中にこの授業を懐かしく思い出される方もおられるでしょう。近年の授業内容を紹介します。開講期間の前半で、型枠製作・鉄筋加工からコンクリートの打込みまで、鉄筋コンクリート工事に必要な材料と道具を用いて、梁を作成します。ここでは寸法通りにどう作るかなど品質管理も学びます。コンクリートが固まるまでの間、使用した鉄筋の引張試験、コンクリートの圧縮試験、骨材試験等を実施し、素材試験結果に基づき梁の耐力を計算します。開講期間の後半では、各班で作成した4体の梁について加力実験を行います。写真は、加力中にコンクリートのひび割れを観察している様子です。配筋等を変えた梁の実験から曲げ破壊とせん断破壊での挙動の違い、PC鋼棒を用いたプレレストコンクリートの挙動、せん断区間で下端筋とコンクリートの付着がない場合の挙動など、それぞれの梁の強度や破壊性状の違いを観察します。それらの実験結果と考察をレポートにまとめ、最終回では各班の代表者が発表して議論します。材料試験を実施している大学は多いようですが、授業でこれだけの構造実験を実施している大学は珍しいと聞きます。今後もこの授業を続け、構造研究の面白さを学生達に伝えてゆきたいと思います。



■学生・教員の受賞と活躍（学生の学年は受賞時）

- ・2023年度日本建築学会大会 若手優秀発表賞
石田 誠忠（平島・戸塚研、修士2年）防火部門
堀江 萌愛（平島・戸塚研、修士1年）防火部門
羽田 知樹（松浦研、修士2年）都市計画部門
澤田 春奈（松浦研、修士2年）都市計画部門
菊地 悠斗（安森研、修士1年）建築歴史・意匠部門

附田 悠杜（安森研、卒業生）建築歴史・意匠部門

- ・2023年度日本建築学会関東支部研究発表会
優秀研究報告集

鈴木 みなみ（平島・戸塚研、修士1年）

- ・2023年度日本造園学会関東支部大会 事例・研究発表賞 口頭発表部門 奨励賞

青石 颯一郎（湯浅研、学部4年）

- ・2024年度日本火災学会学生奨励賞

岩瀬 太河（平島・戸塚研、修士1年）

平沢岳人 教授

木材のロボット加工技術を生かして製作した恐竜骨格模型を、北陸新幹線が延伸した記念で福井市に寄贈しました。詳細は大学HP (https://www.chiba-u.jp/news/research-collab/post_409.html) でも紹介されています。

安森亮雄 教授

・『LIXIL eye No.30』（LIXIL）の特集「建築のまちを旅する18 宇都宮、過去から未来へ 大谷石の軌跡をめぐる」のナビゲーターを担当され、2024年1月に刊行されました。

(<https://www.biz-lixil.com/column/lixileye/no030/>)

・『図説 付属屋と小屋の建築誌 もうひとつの民家の系譜』（鹿島出版会）を分担執筆され、2024年3月に刊行されました。

安森亮雄 教授、鈴木弘樹 准教授

墨田サテライトキャンパスの開設と運営における、公的資源を活かした街と一体となったキャンパスづくりに関して、千葉大学、墨田区、UDCすみだが、第9回サステナブルキャンパス賞2023大学運営・地域連携部門で大賞を受賞し、キャンパス整備企画室等を兼務する両教員が表彰式に陪席しました。

鈴木弘樹 准教授

鈴木准教授と大野暁彦氏の共著による『日本の美しい庭園を1冊で巡る旅』（株式会社エクスマレッジ）が2024年5月に刊行されました。

松浦健治郎 准教授

- ・日本建築学会論文集 査読功労者表彰
- ・2023年9月に近隣住民や通行人が気軽に座れる「まちいす」を西千葉学園通りに設置し、11月には企業・住民・大学が共同で植物を育てる「西千葉アーバンファーム」プロジェクトを実施しました。

都市工学コース／都市環境システムコース

■ 都市環境システムコースだより

学部コース長(学科長)(教授) 村木 美貴

卒業生の皆様、こんにちは。2024年度、都市工学コースの学部コース長を務めております村木美貴です。2022年度に都市工学コースのコース長を勤めて早2年で、コース長の任を行うことになりました。当コースでは昨年度新しく有賀先生をお迎えしましたが、16人という少ない人数の中、これから定年を迎える先生方がいらっしゃるので、暫くはコース運営が大変になることが予想されます。

そのような中、都市防災、リモートセンシングを専門とされていらっしゃって、千葉大学都市環境システム学科ご出身の劉ウェン先生が、2023年10月助教から准教授に昇任されました。劉先生は学部から博士課程まで当コースに所属され、DC 2、東京工業大学での特別研究員を経て、2014年から助教を勤められていました。私自身、学部の時からしっかり課題をされて積極的だった劉先生の姿を思い出し、時の経つ速さに驚くと共に、今後は、ますますの研究のご発展と後進の育成に期待したいと思います。

さて、学部は4年生が都市環境システムコース所属ではありますが、カリキュラム上は都市工学コースとなり、来年度からは全学年が都市工学コース所属となります。これに伴い、今年度の4年生からは都市工学コースの研究室に配属されることになりました。学生数も49人と少なく、各研究室最大5人が配属され、4月から研究を進めています。

さらに、都市工学コースを充実させるために、現在、土木材料、施工、建設マネジメント、構造工学、地震工学、地盤工学、防災工学と比較的幅広く社会基盤分野を専門とされる教員を公募しています。来年春には新しいメンバーを迎え、さらに魅力あるコースになっていくと思います。

大学キャンパスは、コロナの影響がほとんど見られなくなり、多くの人で賑わう状況になりました。昨年度から卒業論文、卒業計画、修士論文発表会が対面で行われるようになり、緊張しながら発表をする学生の姿を久しぶりに目にしたように思います。やはり、対面で行われる発表会は、緊張があり、学生生活の締めくくりとなる発表会の意味を感じました。また、昨年度から卒業式と修了式が一緒に行われることになり、父兄の方もお招きする従来と同じ形式の式典を開くことができるようになったのも大きな変化だと感じます。

さらに、ほとんどの講義が対面で行われるようになった一方で、回数を限ってオンラインやオンデマンドでの講義も実施されています。IoTの活用が教育や研究の機会や方法を広げることが、コロナが大学にもたらしたポジティブな影響かもしれないと感じています。これからも新しいシステムや方法を教育・研究に積極的に導入していくことが大事だと思います。

また、素晴らしいご報告として、都市環境システム学科を2008年に定年退職された池田宏明名誉教授が昨年11月3日付の秋の受勲にて教育研究功労で瑞宝中綬章を受章されたことが挙げられます。池田先生は千葉大学在職中にカラーマネジメントや図記号の分野における国際標準化に日本代表として貢献されると同時に、インターネットの利用技術を世界の標準化活動に導入するなどの功績を挙げられています。池田先生の受勲に心からお祝い申し上げますと共に、更なるご活躍を心からお祈りしたいと思います。

最後となりましたが、卒業生の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。また、都市工学コースへのご指導・ご支援を引き続き賜りますよう、教員を代表してお願い申し上げます。

(むらき みき)

■ 教員・学生の受賞(2023.9～2024.5)

- ・中条隼人君(荒井研B4)が、2023年9月14日、令 Joint Agent Workshop & Symposium(合同エージェントシンポジウム)2023にて論文奨励賞を受賞。
- ・池田宏明名誉教授が、2023年11月3日、秋の叙勲にて教育研究功労で「瑞宝中綬章」を受章。
- ・鳥海良太君(荒井研M2)が、2023年11月9日、第

60回日本鉄道サイバネティクス協議会にて学生優秀論文賞を受賞。

- ・苺米和樹君(丸山研D1)が、2024年4月28日、台湾の台北市で開催されたThe 5th ACUDR(Asian Conference on Urban Disaster Reduction)にて Excellent Young Researcher Awardを受賞。

■ 定年退職の先生

令和5年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章して

池田 宏明

内閣の助言と承認に基づいて、令和5年11月3日付で、天皇陛下から瑞宝中綬章(The Order of the Sacred Treasure, Gold Rays with Neck Ribbon)が私に授与さ

れました。大変な光栄で身が引き締まる思いでした。

文部科学省関係（教育、科学技術・学術、スポーツ、文化・芸術分野）の令和5年秋の受章者数は、叙勲750名、褒章26名であると文部科学省から報道されています。11月13日に、勲章・褒章伝達式がホテル椿山荘東京で午後零時50分から執り行われ、これに出席して勲章及び勲記の伝達を受けました。

これに先立ち、内閣府賞勲局から「10月中下旬の閣議において決定の上、裁可を得て、11月3日に発令されます」として令和5年9月に内示をいただきました。さらに令和5年10月20日付で、文部科学大臣盛山正仁様から、「この度、あなたは11月3日付をもって瑞宝中綬章が授与されることになりました。」との公式通知を、文部科学省大臣官房人事課栄典班の公用封筒の郵便で受取りました。これで叙勲の具体的な内容を認識した次第です。これまで、教育・研究の活動及び関連した国際と国内の社会活動の機会をいただき、ご支援いただいた皆様及び公式手続きに携わった多くの皆様に感謝いたします。

伝達式等次第は、国歌斉唱に始まり、叙勲の代表者に勲章と勲記が、褒章の代表者に褒章と章記が伝達されました。続いて、東京藝術大学の学生による弦楽四重奏で祝賀曲奏楽があり、文部科学大臣挨拶と受章代表者挨拶があり、大臣からは、「我が国が今後とも活力ある国家として、引き続き、成長・発展を持続するためにも、教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の役割は極めて重要であり、皆様のご功績はこれらの発展に大いに貢献するものと存じます¹⁾」との祝辞をいただきました。壇上には文部科学省役職者が多数列席していました。閉式に続いて直ちに、各受章者への勲章・褒章が複数の担当官により伝達され、その補助を受けながら勲章などをその場で着用しました。

瑞宝章は明治21年に制定され、「公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた者に授与される。図様は古代の宝であった宝鏡を中心にデザインされ、大小16個の連珠を配し、四条ないし八条の光線が付してある。また、鈕には旭日章と同じく桐の花葉が付してある。」としています²⁾。地金は金色ですが銀製のことで、長い歴史と伝統を背景とし独特な七宝技術を駆使して熟練した技術者の手作業により独立行政法人造幣局で製造されているようです。質量は約50gでした。実物の写真をご参照ください。

勲記には「日本国天皇は池田宏明に瑞宝中綬章を授与する 皇居において璽をおさせる」として2千54万6千番台の一連番号が記してあります。

天皇陛下に拝謁するため、複数のチャーターバスに分乗して皇居へ向けて移動し、宮中豊明殿で午後5時過ぎからお祝いのお言葉を賜りました。時節柄、白の

マスクを着用すること、個人のカメラ（スマホ）を使用しないこと等の注意がありました。私は最前列に席を得たため、間近で拝謁に参加できました。各自、天皇陛下からお土産をいただき、その後、小グループに分かれ、豊明殿の階下ロビーで記念撮影がありました。

皇居内での自由行動は禁止で、文部科学省及び宮内庁関係官の指示に従うこととされ、宮殿中庭に待機しているバスに乗り、この日の公式行事は東京駅丸の内広場でおおよそ午後8時に解散となりました。伝達式があったホテル内には、飲料水の自動販売機はないとか昼食・軽食の用意はないなどの制約があり、移動バスの中で時間調整の時間を利用せざるを得ませんでした。今回の最高齢者は83歳で大変な負担であったろうと思われます。朝から10時間あまりの行事でしたが、それに見合う以上の得がたい貴重な体験となりました。

この勲章・褒章の典拠は、日本国憲法第7条七（栄典を授与すること。）に規定する国事行為の一つに関連すると理解されます。同時に、憲法第14条には「栄誉、勲章その他の栄典の授与は、いかなる特権も伴わない。栄典の授与は、現にこれを有し、又は将来これを受ける者の一代に限り、その効力を有する」としています。なお、勲章等着用規定により、制服及び勲章の着用位置が定められています。

言うまでもなく、今回の受章は、大学及び関連産業界及び経済産業省国際電気標準課から活動の機会とご支援をいただいた結果です。それを千葉大学 理工系総務課 工学系人事労務係で精査してとりまとめの上、文部科学省に受章候補者として申請していただき内閣府を介して上奏していただいたものと理解し、数え切れない多くの方々のお世話になりました。最後に、かつての同僚であった千葉大学大学院工学研究科の檜垣泰彦先生には、情報収集整理などで大変お世話になりました。また、工学部都市環境システムコースのサイトに関連情報³⁾を掲載していただきました。記して感謝いたします。

(いけだ ひろあき)

参考資料

- 1) 文部科学省：令和5年秋の勲章・褒章伝達式、https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2023/20231113_2.html
- 2) 内閣府賞勲局：勲章・褒章受章者のしおり（05）
- 3) 池田宏明名誉教授が瑞宝中綬章を受章、<https://www.tu.chiba-u.ac.jp/news/detail.cgi%3Ftable=index&search=20231212Higaki.html>



デザインコース

■ デザインコースだより

2024年度コース長 樋口 孝之

昨年度末の3月に、久保光徳教授、岩永光一教授、渡邊慎二教授が定年退職されました。久保教授は意匠形態学研究室において形態分析と構造力学の教育研究に尽力され、渡邊教授はデザインマネジメント研究室でデザインソリューションに関する教育研究を推進されてきました。お二人は今年の会報で訣辞を寄せられており、本報では岩永教授からのご挨拶をお届けいたします。また、本年度よりファン・カルロス・チャコン・キンテロ助教が情報学研究院に異動し、情報データサイエンス領域でデザイン教育研究を行うこととなりました。

デザインコースの海外留学活動についてご紹介します。留学プログラムには長期と短期の2種類があります。長期プログラムは、学生交流協定を締結している大学に1学期または1学年間、派遣留学生として留学することができます。年間5～8名が実施しています。12名の派遣があった年もありました。コロナ禍が生じて慎重な対応が求められましたが、再び留学希望が増えてきています。留学先は欧米が多く、イタリア（ミラノ工科大学）、ドイツ（KISD）、フィンランド（アールト大学、ラップランド大学）、スコットランド（グラスゴー芸術大学）、フランス（ENSCI、ナント大西洋大学）、ポルトガル（IADE）、アメリカ（シンシナティ大学）などがあります。韓国（ソウル大学、延世大学）にも派遣を行いました。デザインコースでは、1年間留学の場合に2つの大学に1学期ずつ留学することを推奨しており、例えばイタリアとフィンランドの大学に留学することで、異なる特徴のプログラムに学び、それぞれの地で4～5カ月暮らすという留学生活を送っています。短期プログラムは、協定大学と連携した2週間ほどのデザインワークショップを主体に実施してい

ます。ひとつのワークショッププログラムには6名ほどの学生が参加いたします。ワークショップでは本学の学生と協定大学の学生がチームを組んで共同作業で課題に取り組み、デザインプロポーザルをつくりあげます。受入と派遣の双方向で連携ワークショップを実施しており、派遣は年間に6つ前後を実施しています。アジアの各国、ここ数年は韓国、中国と多く実施し、そのほかにも台湾、インドネシア、タイ、シンガポールの大学と行ってきました。メキシコの大学との実施も多くなっています。欧米にも数多く行ってきましたが費用高騰で実施数が減っています。そのほか文部科学省の採択プログラムの助成を受けて、学生が自主的にリサーチテーマを設定し2カ月で2カ国の渡航調査を行うプログラムもあります。以上、長期派遣者数や年間のワークショップ実施数は変動していますが、新たな国や大学との連携を進めるとともに、活動内容として新しい試みなどを行いながら、デザイン学生の海外留学活動を展開しています。

最後に過去5年間の卒業生の進路状況について報告いたします。毎年、学部卒業生は70名弱で、そのうち63%が修士課程へ進学しています。修士課程の年間の修了者は55名前後です。5年間の学部卒業生と修士修了生を合算して就職先の産業分類を確認したところ、製造業43%、情報通信業27%、専門・技術サービス業16%、建設業6%、小売業4%の分布となっています。製造業への就職には、専門職としてプロダクトデザインやUXデザインなどのデザイン職、または総合職があります。専門・技術サービス業の内訳は、主に広告業やデザイン制作事務所で、ほかにコンサルティング等となっています。建設業は多くがディスプレイ業です。新たに同窓会に加わった卒業生の皆さまのご活躍を楽しみにしています。

■ 定年退職のご挨拶 「大学のにおい」

岩永 光一(人間情報科学研究室)

本年3月31日をもちまして定年退職いたしました。少々紙面を頂戴してご挨拶を申し上げます。千葉大学には1995年5月1日付で、デザインコースの前身の一つである工業意匠学科に助手として着任いたしました。それ以来、28年11か月の間、学生、事務職員、教員の皆様には大変お世話になりました。無事に定年を迎えることができたのも、皆様からのお力添えの賜物と心よりお礼申し上げます。

千葉大学に赴任したとき、引越しの手伝いに来てくれた父と二人で休日の西千葉キャンパスを歩きました。人影のない静かなキャンパスを歩くうちに、気がつくとう大学のにおいを感じていました。においというより空気感といった方が良いかもしれませんが、他の場所では決して感じることはない大学ならではのにおいでした。言葉で説明するのは大変難しいのですが、それは何物にも付度しない自由で崇高なにおい(?)とでもいえるでしょうか。千葉大学に来る前は、母校の助手を経て企業の研究所に勤務していましたので、私としては大学に戻ってきたという期待にあふれていま

し、すがすがしい初夏の静寂なキャンパスの空気は、よりいっそう大学のにおいを際立たせてくれたのかもしれない。父も同じような感覚に浸っていたようで、二人とも無言で並木の道を歩いたのをよく覚えています。街や自然、会社や家庭など、それぞれにはそれぞれの空気とにおいがあるのだらうと思います。千葉大学にはしっかりとした大学のにおいがありました。長く嗅いでいると感覚が麻痺するのでしょうか。今では着任したときのような新鮮なにおいは感じなくなりましたが、しばらく間をおいて、いつかまた西千葉キャンパスに大学のにおいを嗅ぎに来たいと考えています。

卒業生の皆さんも、入学したときのことを思い出してみてください。私と同じような経験をした方も少なくないのではないのでしょうか。忙しいお仕事の合間を見て、たまには大学のにおいを嗅ぎに母校に来てみませんか。忘れていた何かを思い出すかもしれませんよ。あの時に私が感じた大学のにおいを千葉大学がいつまでも持ち続けていてくれることを、心から期待しています。



多くの卒業生が参加した研究室コンパ。令和6年3月23日 松韻会館にて（前席左から3人目が筆者）

機 械 工 学 コ ー ス

■ 機械工学コース便り

コース長 森吉 泰生



最近の機械コースに関係する状況を報告します。コロナ禍が終焉し、平常状態に戻ってきました。千葉大学は「グローバル人材育成“ENGINE”」を策定し、2020年度から全員留学制度を導入しましたが、コロナ禍で実際に海外に行くことはできず、オンラインでの体験等で代用してきました。今年度からは実際に海外に行く必要があり、コースでの対応も増えています。学生の皆さんには、日本の良さや課題を知り、自分の努力すべき点を見つけてほしいと願っています。

産業界の人手不足は、学生の就職に追い風になっています。また、これまで留学生の多くは日本での就職を希望していましたが、帰国して就職したほうが待遇が良く、帰国する学生が増えています。

文科省の支援で、博士後期課程に進学すると返済不要の奨学金や研究費がもらえるようになりましたが、依然として日本人の進学は少ない状況です。研究環境を魅力的にすることや博士号取得後に企業に好待遇で就職できるようにすることも必要と考えます。

運営交付金の削減のため大学運営が厳しい状況に陥っており、コースの共通設備の更新などに企業からの寄附金を活用しています。(寄附金をいただく代わりに、講義室などにその会社のPRパネルなどを設置します)

定年退職された先生の空きポストを補充できない状況も続いており、特に若手教員の減少が問題ですが、本年4月に流体数理工学教育研究分野に川嶋大介先生が助教として着任されました。また、昨年10月には松坂壮太先生が教授に昇任されました。これにより、現コース教員構成は、教授10名、准教授8名、助教3名の計21名となっています。

学生の教育のために、工作機械等を使った機械工学実習の内容維持を行っており、3人の技術職員と非常勤講師の先生とで実習教育を行っています。企業からの現物寄附もいただいています。機械実習工場では、研究に使う実験装置の加工や試作も行っており、最近では他のコースや学部からの依頼も増えています。技術職員の自己研鑽やモチベーション向上にもつながっています。

以上、機械コースに関連する状況を報告いたしました。厳しい予算、教職員削減の下でも、学生の教育研究の質を落とさないように各人が努力しております。引き続き、同窓会の会員のみならず、今まで以上に温かいご支援とご鞭撻を賜りますよう、宜しく申し上げます。

■ 教員・学生を受賞(2023年9月～2024年5月)

- 川嶋大介特任助教(武居研)：『学会賞(技術賞)』、第34期可視化情報学会、2023年8月
- 小川良磨君(JSPS特別研究員(当時)・武居研)：『最優秀演題賞』、第7回日本リンパ浮腫治療学会学術総会、2023年9月
- Yosephus Ardean Kurnianto PRAYITNO特任研究員(武居研)：『BEST Paper 賞』、WC IPT Mexico 2023、2023年9月
- 半田優斗君(修士2年・糸井研)：『優秀賞』、一般社団法人軽金属学会関東支部、2023年10月
- 岩瀬広也君(学部4年・糸井研)：『最優秀賞』、一般社団法人軽金属学会関東支部、2023年10月
- 山崎翔吾君(修士1年・山崎研)：『支部長賞』、日本材料学会関東

支部、2023年10月

- 新井萌々香君(修士1年・山崎研)：『Best paper award』、The 11th China-Japan Bilateral Symposium on High Temperature Strength of Materials、2023年10月
- 齊藤大輔君(修士2年・武居研)：『Best Presenter』、The 3rd International Conference on Technology for Sustainable Development 2023、2023年11月
- 新井萌々香君(修士1年・山崎研)：『ベストプレゼンテーション賞』、日本材料学会高温強度部門委員会、2023年11月
- 坪田健一教授：『Best Presenter Award』、The 12th Asian-Pacific Conference on Biomechanics、2023年11月
- 半田優斗君(修士2年・糸井研)：『優秀講演賞』、公益社団法人日本金属学会 状態図・計算熱力学研究会、2023年11月
- 山崎唯華君(修士2年・糸井研)：『優秀発表賞』、一般社団法人軽金属溶接協会、2023年11月
- 武居研チーム1(武居研)：『第2位』、特定非営利活動法人日本アウトフィットネス協会・第6回千葉さつやまマラソン、2023年12月
- 柳澤涼平君(修士2年・大川研)：『SI2023優秀講演賞』、計測自動制御学会、2023年12月
- 栗田貴大君(修士2年・劉・中田研)：『若手優秀講演表彰』、第34回バイオフロンティア講演会、2023年12月
- 五味敬人君(修士1年・坪田研)：『若手優秀講演表彰』、第34回バイオフロンティア講演会、2023年12月
- 半田優斗君(修士2年・糸井研)：『軽金属希望の星賞』、一般社団法人軽金属学会、2024年1月
- 永田涼太君(修士2年・糸井研)：『軽金属希望の星賞』、一般社団法人軽金属学会、2024年1月
- 川名隼平君(修士2年・比田井・松坂研)：『優秀講演賞』、千葉県加工技術研究会、2024年3月
- 久保田祐司君(学部4年・比田井・松坂研)：『優秀講演賞』、千葉県加工技術研究会、2024年3月
- 徳永大二郎君(卒業生)、佐藤正隆君(博士1年)、伊東翔特任助教、比田井洋史教授、松坂壮太教授(以上比田井・松坂研)、尾松孝茂教授(物質科学コース)：『砥粒加工学会論文賞』、砥粒加工学会、2024年3月
- 高橋直人君(学部4年・比田井・松坂研)：『エクセレントプレゼンテーション賞』、精密工学会、2024年3月
- 若宮秀介君(学部4年・大川研)：『Best Presentation Award』、日本機械学会第63回学生員卒業研究発表講演会、2024年3月
- 岩瀬広也君(学部4年・糸井研)：『優秀ポスター賞』、公益社団法人日本金属学会、2024年3月
- 五味敬人君(修士1年・坪田研)：『若手優秀講演フェロー賞』、日本機械学会、2024年3月
- 永田涼太君(修士2年・糸井研)：『三浦賞』、一般社団法人日本機械学会、2024年3月
- 永田涼太君(修士2年・糸井研)：『千葉大学融合理工学府長彰』、千葉大学融合理工学府、2024年3月
- Kiagus Aufa Ibrahim君(博士3年・武居研)：『融合理工学府長賞』、千葉大学大学院融合理工学府、2024年3月
- 浅野航太君(学部4年・武居研)：『学術研究活動賞』、千葉大学、2024年3月
- 武居昌宏教授(武居研)：『日本機械学会教育賞』、日本機械学会、2024年4月
- 神田太郎君(修士2年・糸井研)：『優秀ポスター発表賞』、一般社団法人軽金属学会、2024年5月
- 小泉咲人君(博士3年)、中田敏は准教授、劉浩教授(劉・中田研)：『2023 JBSE Papers of the Year Award』、日本機械学会バイオエンジニアリング部門、2024年5月
- 村山友太君(博士3年)、中田敏は准教授、劉浩教授(劉・中田研)：『2023 JBSE Graphics of the Year Award』、日本機械学会バイオエンジニアリング部門、2024年5月
- 近藤匠君(修士1年・劉・中田研)：『優秀ポスター表彰』、日本機械学会バイオエンジニアリング部門、2024年5月
- 武居研チーム1(武居研)：『第2位』、N P O 法人日本アウトフィットネス協会/アースランクラブ 株式会社ワールドパーク・第12回稲毛花のマラソン、2024年5月

■ 新任教員のご挨拶

助教 川嶋 大介



2024年4月1日付にて本学機械工学コース助教として着任いたしました。本学には、特任研究員として赴任してから数えると7年、お世話になっております。専門は可視化計測工学で、光や電気を利用した物質のイメージング技術、特に、逆問題解析による再構成イメージング技術に関する研究に

取り組んでいます。計測の対象は、化学プラントにあるパイプライン内の混相流体现象のようなスケールの大きなものから、われわれヒトの体を形成する細胞やタンパク質のような比較的スケールの小さなものまで、さまざまなスケールのものが対象です。現在社会的ニーズがあるもの、将来的にニーズが生まれそうなもの、または、単純に興味が続くままに実施しているものなど、さまざまなものをトピックに、「目に見えないものを視える化する」という共通のコンセプトのもと研究を実施しています。

学生指導も重要視しています。学生には、授業を通じて工学の基礎知識の習得にとどまらず、その後の研究生生活に向けた物事の考え方や取り組み方など、より実践で役立つ学びを提供したいと考えています。そのなかで重要なことは、学習・研究を楽しんで取り組んでもらうことであり、それができる環境を提供していきたいと思っております。

医工・産学連携にも積極的に取り組み、異分野とのつながりを大切にしながら新しい知識を育んでいき、破壊的イノベーションを創造する研究成果を生み出せるように、また、今後の工学研究に発展できるようさらに励んでいく所存です。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

■ 学生フォーミュラプロジェクト活動記

千葉大学フォーミュラプロジェクトリーダー 堀田 伊吹

2023年8月28日(月)～9月2日(土)に開催された『学生フォーミュラ日本大会2023-ものづくり・デザインコンペティション-』に参加しました。学生フォーミュラは、学生がチームを組んで、フォーミュラスタイルの小型レーシングカーを企画・設計・製作したものを持ち寄り競う競技です。大会では車の走行性能だけでなく、車両コンセプト・設計・コスト審査などもものづくりの総合力を競う、実践的な能力を養う活動です。千葉大学フォーミュラプロジェクトは2004年のチーム創立以降、毎年大会へ参加しており2021年には総合5位、2022年には総合4位を獲得しました。

2023年プロジェクトでは総合3位を目標に活動を始めました。パワートレインでは可変吸気機構を採用して競技ごとに最適な出力を得ようと画策した他、フロントウィングを三次元形状にし、ダウンフォース量をより増加させました。設計段階では軽量かつ剛性の高いパーツを作るために、また効率よく製作を行うために、用いる材料の選定やCAEを用いた構造解析を行いました。車両の製作も学生自らが行っており、パイプを切り出してグラインダーで擦り合わせ、溶接をしてフレームの製作を行っている他、技術職員の皆様の指導を受けながら、旋盤やNCフライス盤を用いて各種パーツの製作を行っています。

学生フォーミュラでは車両の運動性能を競う動的審査があり、その審査の前には大会独自の車検と騒音検査をクリアしなければなりません。しかし、パーツ製



旋盤でのパーツ製作

作が遅れ車検への対策がおざなりになっていた結果、車検、騒音検査共に一度で通過できませんでした。大会中に追加パーツを製作して対策を行ったため、動的審査日程まで騒音検査がずれ込み、車両セッティングを変更する時間が残されておらず、一部の動的審査では実力を出し切れない大変悔しい結果となりました。しかし、翌日には持ち直し、コース走行性能を競う部門ではチーム史上最高となる3位を獲得する事ができ、総合7位で大会を終えました。

工学同窓会の皆様におかれましては、日頃弊チームをご応援いただき誠にありがとうございます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ Chiba Robot Studioの近況

Chiba Robot Studio会長 友澤 由津樹

千葉大学ロボコンサークルことChiba Robot Studioは、各種ロボコンへの参加を目的とした、千葉大学公認サークルです。先日、8名の新たなメンバーを迎え、総勢41名でロボコンに向けて活動しています。

弊サークルの最も主要な活動の一つに、NHK学生ロボコンへの参加があります。NHK学生ロボコンは、大学ロボコンにおける全国大会のような位置づけで、毎年全国から選りすぐりのロボットが集結します。弊サークルも、毎年NHK学生ロボコンに参加しており、2021年には、独創的な戦術が評価されアイデア賞をいただくことができました。前年度、今年度は惜しくも二次ビデオ審査にて落選となりましたが、新規機構・アクチュエータ・自律制御システム開発や、AIによる画像分析技術の導入など、毎年新たな挑戦ができる機会です。また、NHK学生ロボコンへの参加を通して、他大学のロボコンサークルとの交流も行っており、技術的フィードバックはもちろん、チーム運営や活動場所の確保、教育体制などの組織運営面での情報交換ができます。このように、NHK学生ロボコンへの参加は弊サークルの基幹となる重要な活動であり、今後もさらなる進歩を重ね、優勝を目指して尽力してまいります。

また、NHK学生ロボコンと肩を並べる主要なロボコンとして、関東春ロボコンがあります。その大会ルールは、NHK学生ロボコンを意識したものであり、NHK学生ロボコンへの準備段階として重要な大会です。弊サークルにとって関東春ロボコンは、1年生が初めて他大学と対戦するとともに、先輩方の手を離れ自主的に開発を進める機会となっています。昨年度の大会では、弊サークルのチームは全敗という苦い経験を味わいました。その反省から、今年度は教育体制を一新して、基本技術の学習に重点を置く、コミュニケーションを密にとるなどの改善を行いました。その結果、今年度は、22チーム中ベスト8入りを果たしました。

これらに加え、弊サークルは、工学部祭で部内ロボコン「ちばロボ」を主催し、毎年多くの方にロボコン観戦やロボットの操縦を楽しんでいただいております。また、NPO法人「ちばサイエンスの会」が開講する講座に補助員として参加し、地域の子供たちの科学的興味・関心の向上に貢献しています。

弊サークルは今後も、技術的な点はもちろん、組織運営的な点や、サークルメンバーの充実度といった、多面的に進化したいと考えております。最後に、私たちは工学同窓会の皆様からのご支援のおかげで活動を続けることができています。同窓会の皆様には今後も私たちの活動を温かく見守っていただけますよう、よろしく願い申し上げます。



今年度作製した機体

医工学コース

■ 医工学コースの現状

コース長 中川 誠司

医工学コースの前身となるメディカルシステム工学科が2004年度に設置されてから、今年でちょうど20周年を迎えます。国内では他大学に先駆けて“医工学”分野の専門教育を開始した当コースは、現在では千葉大学の教育研究における特色の一つとしてあげられる存在になりました。この20年間で900名以上の学部卒業生、700名以上の博士前期課程修了生、および50名以上の博士後期課程修了生を輩出しており、その多くが医療機器開発や電気電子・機械・情報の各産業、さらには大学や政府機関で活躍しています。

昨年度は48名が工学部総合工学科医工学コースを卒業、39名が融合理工学府基幹工学専攻医工学コース博士前期課程を修了しました。また、工学研究科人工システム科学専攻メディカルシステムコースから1名、融合理工学府基幹工学専攻医工学コースから4名が博

士後期課程を修了しました。代わって、今年度は41名の新生が医工学コースに入学しました。また、学部3年次に9名が編入学しました。さらに、今年度は学部2年次に園芸学部からの転学部生1名を迎えることになりました。

今年度は学部1年次を高橋応明准教授と川村和也准教授、2年次を折田純久教授と大塚翔助教、3年次（兼博士前期1年次）を兪文偉教授と野村行弘准教授、さらに4年次（兼博士前期2年次）を林秀樹教授と平田慎之介准教授にご担任いただき、それぞれに大学生活の支援と学習指導をいただいています。

海外の研究機関との連携や積極的な国際会議発表は医工学コースの特徴の一つとなっており、例年、多くの学生が共同研究や国際会議への参加のため、海外に渡航しています。コロナ禍ではほぼゼロになった海外渡航者数も一昨年より徐々に回復し、昨年度は58名の学生が海を渡りました。今年度は6月末の時点で17名の学生が海外での研究活動を実施（一部予定）してい



学部卒業式（令和6年3月22日撮影）



大学院修了式（令和6年3月22日撮影）

ます。この中には、海外の研究機関に1ヶ月以上滞在して共同研究を行った例や、国際会議で受賞を果たした例が複数含まれています。海外機関との共同研究や国際会議での発表・受賞は医工学コースのプレゼンス強化のみならず、学生のモチベーション喚起にも大いに役立っており、コースとしても推進して行きたいと考えています。

人事面では、メディカルシステム工学科および総合工学科医工学コースの教育・運営に長く尽力されてきた鈴木昌彦教授が令和6年3月に定年退職を迎えられました。鈴木教授は整形外科を専門とされる医師でもあり、特に人工膝関節の基礎研究と実用化開発において顕著な業績を挙げられました。

本年度も教職員一同、医工学領域の教育・研究の発展と社会貢献に努めてまいります。皆さま一層のご指導鞭撻のほど、よろしくごお願い申し上げます。

■ 退職教員よりご挨拶

鈴木 昌彦



2011年11月に千葉大学大学院医学研究院整形外科学講師からフロンティア医工学センター教授に就任しました。

整形外科医時代は、主に人工関節の開発と手術をしていましたが、1995年頃から先輩に誘われて、企業が主催する人工関節の高度機能化研究会に参加していました。3ヶ月に一度、休日に開かれ、工学部の先生方や企業の方、医師らが集まり、9時から15時まで様々な議論をしていました。この研究会はその後2018年7月まで継続されました。当時は、企業と研究しているようではどうしようもない、と言われる時代でした。企業と研究している＝自分のアイデアがない、と考えられており、先輩からも将来の身の振り方を考えておいた方が良いと言われていました。私はただ面白いから参加しており、工学部の先生方の話を聞きながら、わからない言葉をiPadで調べたり、企業の方に説明してもらったりと大変勉強になりました。その後、2001年頃の小泉構造改革によって研究者の価

値観も180度変わり、企業と研究できない＝何も有益なことを生み出さない、と言われるようになりました。

2001年に千葉大学へ戻り、企業と研究していた人工関節の摺動面であるポリエチレンにビタミンEを添加すると耐久性が向上するということを明らかにするため、守屋秀繁教授のもと、千葉大学医学部附属病院整形外科で臨床試験を行うことになりました。実際に認可されたのは2010年で、開発を始めた1999年から数えると、結局11年かかりました。PMDAで決められた価格は従来品の5万円に対して、ビタミンE添加の新製品は7万円でした。日本では政府が医療費を抑えようとして、高価な値段がつけられない不利があります。整形外科における医療機器のシェアは、国内企業が20%、海外の企業が80%です。海外の企業は年間売り上げが2,000億ドル以上もあり、人工関節の販売数も多いため、僅かな利益でもペイします。中小企業で構成される国内企業は、国内でのシェアも小さく、利益を確保するのが大変です。

教授になってからは、2010年に解剖学教室に作られたCAL (clinical anatomy lab) を活用した研究を進めました。それまで国内で使用できるのはホルマリン固定献体だけでしたが、CALでは新鮮凍結遺体を使用することができました。ホルマリン固定でも解剖や計測は可能ですが、力学試験を行うとヤング率が異なります。海外では新鮮凍結遺体が普通に研究で用いられており、ホルマリン固定献体を用いた実験は相手にされていません。また、バイオメカニクスで有限要素法を用いた解析をしようとしても、文献には細かい部位のヤング率が無いことがわかりました。そこで研究室の学生には、下肢の脛骨腓骨靭帯や骨膜などのヤング率を求めることから始めてもらいました。研究としては単純ですが、有限要素法を正確に行うには重要な研究です。私のところに来た学生は、発表直前にならないと勉強はしませんが、実験がうまく、実践向きの人が多かったように思います。

定年後は臨床医に戻って千葉市内で働いています。どうも長い間にわたりご支援いただき、誠に有難うございました。

電気電子工学コース

■ 電気電子工学コース便り

コース長 小塚 成一



今年度の電気電子工学コースのコース長を担当しております小塚です。工学部改組に伴って新しい電気電子工学コースが発足して今年の4月で8年目を迎え、博士前期（修士）課程修了生を社会に送り出してから2年目を迎えております。まだ、旧

電気電子工学科の学生も若干残ってはおりますが、卒業論文や修士論文の研究で研究室に配属される学生・大学院生は、ほぼ新コース出身者となっております。

さて、本年度も本学科の教職員に異動がありました。まず、2024（令和6）年3月末日付で、電気エネルギー応用教育研究分野の早乙女英夫准教授が定年退職されました。これに先立ち、同年3月1日14：00から15：30まで、工学部17号棟213教室にて、早乙女先生の最終講義が開催されました。この213教室は早乙女先生が長年、学部の授業で使われていた思いで深い場所で、多くの早乙女研究室の卒業生・修了生を含めて、本コースや他コースの教職員が聴講する中で、本学でのご研究を中心にご講義いただきました。早乙女先生には長年にわたり本コースでの教育研究並びに学部・コースの運営にご貢献いただき、深く感謝申し上げます。本稿では早乙女先生に退職のご挨拶を願っております。

また、2024（令和6）年3月末日付で、システム制御教育研究分野の残間忠直准教授が退職し、同年4月1日付で東京電機大学未来科学部ロボット・メカトロニクス学科教授に就任されました。残間先生には2011年4月に本学に着任して以来、13年間にわたり精力的に教育研究並びに学部・コースの運営にご貢献いただきました。今後、残間先生の新天地での益々のご活躍を期待しております。本稿では残間先生に転職のご挨拶を願っております。

最近も、本コースの学生が、様々な賞を受賞しております。2024（令和6）年3月22日、環境知能システム教育研究分野の永田健斗さん（2023（令和5）年度卒業：指導教員 荒井幸代 教授）が計測自動制御学会よりSICE優秀学生賞を受賞しました。2024（令和6）年3月22日、システム制御教育研究分野の後藤大輝さん（2023（令和5）年博士前期課程修了：指導教員 劉康志 教授、残間忠直 准教授、小岩健太 助教）が同じく計測自動制御学会よりSICE優秀学生賞を受賞しました。2024（令和6）年1月31日、通信・AI信号処理教育研究分野の王君喆さん（博士後期課程2年）（指導教員 安 昌俊 教授、車載祥 特任教授）の論文が国際会議IEEE ICEIC2024にてBest paper awardを受賞しました。

2023（令和5）年10月4日、システム制御教育研究分野の松島勇太さん（博士前期課程2年）（指導教員 劉康志 教授、残間忠直 准教授、小岩健太 助教）が2023（令和5）年電気学会 電力・エネルギー部門大会にてYOC優秀発表賞を受賞しました。受賞された学生の皆さんにお祝い申し上げるとともに、熱心にご指導いただきました先生方に感謝いたします。

昨年（2023（令和5）年）5月8日に新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同等の5類感染症に引き下げられてから、本学もオンデマンド型メディア授業から教室での対面方式の授業に戻ってきており、西千葉キャンパスもコロナ禍前の賑わいを取り戻しております。11月1日（金）～3日（日）には、例年通りの大学祭が開催され、2日、3日には本コース主催の企画である「ホログラフィー・ワークショップ+アート作品展」が、電気電子基礎教育研究分野の角江崇准教授を中心に、電子情報システム教育分野の伊藤智義教授、下馬場朋禄教授および研究室所属の学生により実施される予定です。ホログラム作品の展示並びにオリジナルホログラム作品を制作するワークショップが行われる予定です。また、工学部の建物関係では、建築学コースが使用している10号棟の改修工事が行われており、夏ごろまでには完成する予定です。また、昨年（2023（令和5）年）の本会報の表紙に掲載された写真にあるように、7号棟前には新講義棟が建築中であり、秋ごろまでには完成の見込みです。本学の近くにお出での機会がございましたら、工学部の新講義棟、改修後の建物をご覧いただくとともに、是非、本コースにもお立ち寄りください。

■ 退職後の近況

早乙女 英夫



今年5月中旬、新月から2日目、20cm反射望遠鏡を車に積み、長野県の八ヶ岳麓の高原に星見に出かけました。暗い天体を見るには月の光は邪魔をしますので、新月の数日前後の間が星見に適しています。在職中は、週末、月齢、天気、その他の

都合の好条件が整う日程はなかなかありませんでしたが、退職後は週末条件が外れましたので、だいぶ良くなりました。天気ですが、所謂行楽日和では不十分で、関東甲信越上空に高気圧が居座るような晩が望まれます。そうでないと満点の星空や暗い天体を好条件で見ることができません。このときは、満点の星空の中、系外星雲や球状星団、M81、M82、M104、M101、M106、M51、M13、M4、また、アルビレオ（白鳥座のくちばしに当たる色の対比が綺麗な2重星）など、多く

の天体鑑賞を楽しむことができました。最近はいたるところに熊が出没するので、用心しなければいけません。若いころは、林道の脇の広場で一人で夜通し星見をすることもありましたが、今は星見人に理解のある宿に泊まってその前の広場で見るようにしています。

スポーツもしています。冬はもっぱらスキーですが、それ以外のシーズンはテニスです。スポーツと人間ドックにはお金をかけています。いつかは病に倒れるのかとは思いますが、体力や免疫力をできるだけ高め、病気になることは致し方無いとしてもできるだけ早く発見できればと思っています。早く発見する必要も無いとお考えの方もおられるとは思いますが、発見後の自分の選択が重要とおっております。今のところ、健康です。昨年、電動アシスト付き折り畳み自転車を買いました。これも車に積んで、行った先で軽いサイクリングをしたりして楽しんでいます。今年の秋には車に積んで四国に行き、暫くの間、あちこちを自転車と車で巡ろうと考えています。

週に2コマ、前期と後期で合計4科目、出身大学で非常勤講師をしています。ここでは、千葉大学在職時と同様、数式の暗記ではなく、その数式がどのような物理現象を表しているのか、そして、その現象を図として頭の中でイメージするよう、話しています。頭に残すのはその図（その現象の概念）です。大学を卒業して仕事をしている状況では、数式の暗記は必要無く、資料を見れば良いと学生に言っております。社会人は参照不可で仕事をしていません。高校の時の大学受験での勉強法から、社会人の頭の使い方へ大学時代のできるだけ早い時期に変えていかなければなりません。

余暇に興味として量子力学の勉強をしたいと思い、ヒルベルト空間の勉強を始めました。古典物理学では、上記のように、図で概念を捉えることが学生が技術開発を担当する者となっても役に立ちます。一方、量子力学では数学的な視点での現象理解が求められます。例えば、3次元座標までは図でイメージできますが、4次元以上、さらに無限次元を具体的に図を描いて捉えることはできません。量子力学が不得意な学生には、磁性を担う電子のスピンは、その名を利用して、太陽系を公転する地球の自転からの類推として説明はしますが、実態は全く異なります。ヒルベルト空間の勉強では、幸い、数学科出身の中学以来の友人が近所に居るので、2週間ごとに勉強会を開いています。その友人は一人で軒家に住んでいるので、そこに大き目のホワイトボード3枚とふかふかの座椅子2つを持ち込んで置きっぱなしにし、2時間くらいワイワイやって、そのあとに飲みに行くパターンで楽しんでいます。

あとは、高校の同級生バンドでのギター、プランターで枝豆、ピーマン、明日葉などの栽培をしており、今後は、包丁さばきの勉強をして、好きな料理は自分で作れるようになりたいと思っています。

■ 転職の挨拶

残間 忠直



2011年4月に当時の電気電子工学科（現在の電気電子工学コース）に採用させて頂いて以来、2024年3月に至るまで大変お世話になりました。この場をお借りして、皆様から心からお礼申し上げます。千葉大学は我が国のトップクラスの国立大学ということもあり、アクティビティの高さもさることながら、柔軟な思考力や素晴らしい包容力を兼ね備えた、人柄的にも優れた教員の皆様方が多くいらっしゃいます。そのような大変恵まれた環境で研究教育活動をさせて頂いたことは大きな財産となっております。

電気電子工学コースは、冒頭に述べました各教員の活発さだけではなく、研究室を横断した交流があるところも大きな魅力の一つかと思えます。そのような交流を通して、教員だけでなく学生もまた異なる視点や豊かな発想を持って大きく成長していったのではないかと思います。コロナ禍でさまざまな活動が一時期制限されてたこともありましたが、また、明るく楽しく互いに切磋琢磨できる環境が復活しつつあるかと思っております。

さて、私ごとですが、これまで千葉大学で諸先生方からの貴重なご助言や経験を糧に、東京電機大学未来科学部ロボット・メカトロニクス学科にて研究教育に一層邁進しているところです。引き続きさまざまな場面でお力を賜ることになるかと思っておりますが、何卒ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

末筆ではございますが、13年に渡り大変お世話になりましたことを改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。お一人お一人のお名前を挙げてお礼を申し上げたいところですが、紙面がいくらあっても足りませんのでどうかご容赦ください。これからも電気電子工学コースを始め、千葉大学と関係の皆様方のますますのご発展を心より祈念しております。

■ 編集委員から

東京大学生産技術研究所附属千葉実験所跡地の造成工事も本格化し、研究室から見える景色も日々変化して、今でしか見られない風景が広がっています。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



工学系総合研究棟2（電気電子工学コースが入っている建物）から見た造成風景。奥に見えるのが千葉公園新体育館等（2024.6）

■ 情報工学コースの近況

情報工学コース長 川本 一彦

皆様、いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍の影響はほぼなくなり、大学では対面授業やイベントが再開され、コロナ禍前の状況に戻りました。情報工学コース長として、皆様に最新の近況をご報告させていただきます。

【情報・データサイエンス学部の設置】

まず、大きなニュースとして、2024年4月より情報・データサイエンス学部が新たに設置され、情報工学コースの教員が異動して研究教育を担当することになりました。さらに、新学部の設置に伴い、多くの優秀な教員が着任されました。片桐諒子教授、華井明子准教授、田中緑准教授、CHACON QUINTERO JUAN CARLOS助教、HISA NIMI助教、石坂晴奈助教、實石幸穂助教が加わり、この新たな布陣により、情報工学およびデータサイエンスの教育と研究の両面でさらに充実した環境を提供できるようになりました。

【入試状況】

初年度の入試では、一般選抜の募集人数90名に対して志願者は374名と、4倍以上の高倍率になりました。総合型選抜も募集人数10名に対して6名の志願者がありました。来年度には、総合型選抜の募集人数が30名に拡大され、そのうち15名はいわゆる女子枠が設定されます。さらに、博士後期課程の情報・データサイエンス学府では、募集人数10名に対して9名の志願者がありました。なお、博士前期課程は、新学部の1年生が大学院に進学するタイミングで設置される予定です。10月入学でさらに入学者が増える見込みです。昨今のAI人材に対する社会的な期待もあり、博士後期課程の学生を対象としたAI特化型・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト、通称「AIコアJST 次世代AI人材養成プログラム (BOOST)」もスタートしました。このプログラムは、学生たちが経済的な支援を受けながら、最先端のAI技術を研究する機会を提供しています。

【就職状況】

就職状況は非常に好調で、学部と大学院ともにITサービス・コンサルティング、情報通信、エンターテインメント、電機、自動車、金融など、幅広い業界に就職しました。また、インターンシップで取得した学生の評価を含む情報を、企業が就職活動に利用することが認められるようになったこともあり、多くの学生がインターンシップに参加するようになっています。人気企業のインターンシップは特に競争が激しく、採用されるのが難しい状況だと聞きます。

今後とも皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 大学院イメージング科学コースの近況報告

イメージング科学コース長 溝上 陽子

2024年4月の情報・データサイエンス学府/学部新設に伴い、本コース教員も全員が情報学研究所所属となりました。大学院博士後期課程も情報・データサイエンス学府に移行しましたが、博士前期課程については引き続き融合理工学府イメージング科学コースとして教育・研究を続けております。情報学研究所に新しく着任された田中緑准教授(国際教養学部から異動)、CHACON Quintero Juan Carlos助教とHisa Nimi助教(デザインコース出身)は、関連する研究分野で活躍されている先生方ですので、本コースの教育研究分でも新しい風を吹かせてくださることを期待しております。

教育面では、墨田キャンパスのデザイン・リサーチ・インスティテュート(dri)において開講しているコレクティブデザインに関する講義と演習には、本コースの学生も毎年参加しており、建築学、デザインの学生と協力してプロジェクションマッピング、バーチャル・リアリティ等のプロジェクトに取り組んでいます。5研究室に所属する4年生合同の卒業研究中間発表会など、研究室の垣根を超えた学生交流も継続して行われています。研究も活発に行われております。国際学会対面参加による成果発表の機会も増加し、国内外の学会で多くの学生が発表賞を受賞しました。

国際交流についても、学生や教員の派遣や受入がコロナ禍前の水準に戻りつつあります。画像・情報系の国際学生交流プログラムであるアジア学生ワークショップ(ASW)では、学科間(D2D)プログラムも再開し、参加者数が増加しました。2022~2024年度の期間で実施している日本学術振興会研究拠点形成事業B「グローバル感性イメージング科学技術のアジア拠点形成(BAGIS)」(代表:溝上陽子教授)では、2023年度に3つの国際会議で関連セッションが行われ、2024年度も学会セッション、セミナー、研究者・学生の交流が企画されています。

最後に、富永昌二元千葉大学教授が「蛍光物体の測色と画像再現の研究」の業績に対して令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)受賞という、嬉しいニュースをご報告いたします。

教員一同、研究・教育の発展に一層努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

※コースに関する最新情報は、以下のwebで逐次紹介しています。

コースweb: <https://www.tj.chiba-u.jp/imgsci/>

■ 新任教員自己紹介



片桐 諒子

2024年4月に情報学研究院教授に着任致しました片桐諒子と申します。情報・データサイエンス学部、学府の開設にあたり、本学へ戻ってまいりました。2008年千葉大学医学部を卒業後、初期臨床研修ののち東京大学で公衆衛生修士と博士号を取得し、国立がん研究センター、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所で研究を行ってまいりました。データサイエンスマインドを持った人材の育成の一端を担う教育に携わることができ大変光栄に存じます。

専門分野は「疫学」と呼ばれる疾患や健康に関する事象の発生の要因を明らかにする学問分野で、人の健康に関するデータサイエンス、とも言える分野です。ゲノムやその他に関する数十万人といった大規模なデータの解析を中心に特に栄養と疾患の関連の研究を行ってきました。至らぬ点も多々あると存じますが、千葉大学の発展に尽くしていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



華井 明子

4月より情報学研究院に着任いたしました、華井明子と申します。これまでがんの治療に伴う副作用の軽減方法や医療機器の開発に関する研究、また質問紙データによる周産期メンタルヘルスリスクの機械学習解析や生成AIを用いた医療情報アウトプットに関する研究を行って参りました。今後は、医療情報特論などの授業を通じて教育に従事させていただきます。また、歩行パターンの解析を通じて薬の副作用を評価する研究や、共感性に特化したチャットボットによるコミュニケーション基盤の開発研究など、人の健康に関するデータサイエンス分野の研究を実施予定です。

まだ新しい環境に不慣れな点も多く、皆様にご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、諸先輩方のご指導を仰ぎつつ、精一杯努力して参る所存です。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



田中 緑

本学大学院国際学術研究院より大学院情報学研究院へ准教授として配置替えとなりました、田中緑と申します。私は、千葉大学工学部情報画像工学科卒（2010年）、大学院融合科学研究科情報科学専攻修了（2012年博士前期、2016年博士後期）と、本学工学部の出身です。色彩画像の研究がしたいと千葉大学に入学し、研究室の門を叩いた日を昨日の事のように思い出します。

これまで、ソニー株式会社（2012～2015年）ではイメージセンサ事業に携わり、2016年に着任した国際学術研究院では色彩画像工学の教育研究普及に努める等、一貫して画像工学分野の発展のために尽力してまいりました。現在は、人間の知覚に基づく工学応用を研究の礎として、実物・画像間の質感マネジメント技術の開発に励んでおります。新組織でも、千葉大学、そして情報・画像工学の発展のために邁進してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



CHACON QUINTERO JUAN CARLOS

Juan Carlos Chacon Quintero, Assistant Professor originally from Mexico. A designer with a robust background in graphic design, interaction design, and community-led service design projects. My work specializes in interactive experience design and co-designing with artificial agents. Currently, focused on data visualization-led experience design and design-led creative AI. My personal approach integrates technology and creativity to enhance user experiences.



HISA NIMI

I am Hisa Nimi, an Assistant Professor at Chiba University, where I am part of both the Data Science and Design faculties. My background is in graphic design, with a strong focus on visual communication, data visualization and design thinking. My work centers on enhancing the clarity and impact of content through effective design strategies applying creative problem-solving methods, spanning both digital and printed media. I am particularly passionate about exploring innovative ways to understand and present data to facilitate understanding through visual means in multicultural environments.



石坂 晴奈

看護学研究科より参りました。病棟看護師を経て、認知症ケアの研究をしております。情報・データサイエンスの世界はわからないことだらけですので、新入生と一緒に学びたいと思います。これまで人間を対象に質的な方法で研究をしてきたため、プログラムや機械は対極にあるように感じる日々です。しかし、だからこそうまく融合したときにわくわくする研究ができるのではないかと期待しています。これから工学の世界の見え方や問いの立て方を知っていくのが楽しみです。どうぞよろしくお願いいたします。



實石 幸穂

2024年4月1日付にて本学情報学研究院助教として着任いたしました、實石幸穂と申します。この春に本学看護学研究科博士後期課程を修了いたしました。臨床にて得られるデータをもとにした患者の予後予測に関する研究に取り組んでおり、今後もAIによる解析技術を駆使し、より良い看護・医療の実現につながる研究を目指したいと考えております。

教員としての経験は初めてであり、至らぬ点も多々あるかと存じますが、看護とデータサイエンスの架け橋となれるよう、教育と研究に尽力する所存です。皆様方からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

物質科学コース

■ 物質科学コースの近況報告

コース長 津田 哲哉



OB・OGの皆様におかれましては、お元気にご活躍のことと存じます。2017年度に物質科学コースが誕生して、早いもので8年目となります。ナノサイエンス学科と画像科学科を母体とする本コースは、その誕生の

背景から、①開講される講義科目数が他コースと比較して多く、教員の教育活動の負担が大きい、②旧ナノサイエンス学科は物理色が強いのにに対し、旧画像科学科は化学色が強く、物理、化学のどちらか一方に重心を置く学生が多いなどの問題点が顕在化してきました。それらの課題点を克服するため、今年度から我々の理想とする【物理学／化学の枠組みを超えて、物質の本質に迫り、その機能を応用する人材育成】を実現するための改革を実行し始めています。その一例を紹介すると、これまで3年次の学生実験は、物理系、化学系に分かれており、どちらか一方を選択することになっていましたが、2024年度からは物理学と化学の両方の実験技術が身に付く内容へと変更しました。これにより、教員の負担を減らしつつ、我々が理想として掲げる人材をより多く輩出できるようになると期待しています。この改革は山田豊和先生を中心とした若手教員のワーキンググループにより進められ、最近のトレンドを反映した学習内容となっています。今後、講義科



1年次遠足のゴール地点での記念写真

目の改革についても取り組む必要があると考えています。

本コースには、学生、教員のモチベーションを高めるための企画が数多く存在しますが、その中核を担うのが『元気プロジェクト』です。フットワークの軽い若手教員（一部、白髪が混じったおじさんもありますが...）が中心となり、様々な企画を立ち上げ、実行しています。例えば、物質科学コースの名物イベントとなりつつある1年次の遠足は、千葉大学西千葉キャンパス付近に設定されたミッションをクリアしながら、最終目的地である千葉ポートタワーを目指すオリエンテーリング形式で行い、学生が楽しみながら普段の生活にも遠足で得た知識が活用できるよう工夫されています。紙面の都合上、全てについて紹介することはできませんが、このようなイベントはそれぞれの学年次にあり、いずれも多くの学生が興味を持って参加できる企画になっています。

今年度は新たな教職員として、深川弘彦先生（教授）、平原佳織先生（教授）がご着任されるとともに、中村一希先生と宮本克彦先生が教授にご昇進され、塚田学先生はテニユアをご取得されました。先生方の益々のご活躍を期待するとともに、本コースの更なる発展のために大いに貢献していただけるものと信じております。今年度より、いよいよ物質科学コースの使用する建物のリノベーションが始まります。これに合わせたわけではありませんが、物質科学コースの中も大きく変化しつつあり、OB・OGの皆様が本コースの出身であることをこれまで以上に誇りに思えるよう、教職員一同、教育・研究活動に邁進する所存ですので、引き続きご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



3年次対象のOB・OG講演会での1コマ

■ 新任教員自己紹介

教授 深川 弘彦



2024年の4月1日付で着任いたしました、物質科学コース深川弘彦と申します。2003年に千葉大学工学部・物質工学科を卒業し、2007年に大学院自然科学研究科（前期課程・後期課程）を修了しました。

2007年4月からは日本放送協会・放送技術研究所にて、主に有機ELを使ったフレキシブルディスプレイの研究を進め、母校である千葉大学に戻ってまいりました。これからは教育・研究活動を通じて、千葉大学に恩返しをしたいという強い思いを持っています。

学生時代から現在に至るまで一貫して、有機エレクトロニクスに関連した研究を行ってきました。学生時代は主に有機半導体の物性解明に取り組み、前職では有機半導体を使ったデバイスを開発していました。今後は、基礎物性と実デバイスとを繋ぐ研究に取り組みたいと考えています。有機半導体の種類は現在も増え続けており、その材料の組合せによって多種多様なデバイスが実現できます。これら有機半導体のポテンシャルを最大限に引き出すために材料や異種界面の基礎物性を明らかにし、革新的な発光・発電デバイスなどの開発につなげていきます。千葉大学には有機エレクトロニクス分野を牽引してこられた著名な先生が多数いらっしゃるため、これまでの流れを引き継ぎつつ、この分野の研究を発展させることで、千葉大学のプレゼンス向上にも貢献していく所存です。

上記研究活動に加えて、企業に所属していた経験も活かしながら、世界で戦える人材の育成にも取り組んでいきます。まだまだ至らない点が多いかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

教授 平原 佳織



2024年5月1日付けで物質科学コース教授として着任いたしました。名古屋大学大学院博士前期課程応用物理学専攻修了後、JST-ICORP研究員、名城大学研究員を経て2005年に名古屋大学 大学院理学

研究科物質理学専攻にて論文博士を取得し、名古屋大学エコトピア研究所（現：未来材料・システム研究所）研究員、大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻にて助手／助教、テニユアトラック講師、准教授（テニユア取得）を務め、現在に至ります。学生時の研究室の専門が透過電子顕微鏡学であり、経歴上は様々な分野を転々としているのですが、一貫して、ナノカーボンおよび関連材料を対象とし、透過電子顕微鏡を用いた構造解析や特性評価に関する基礎研究を行ってきました。多彩な形態のフレキシブルなファンデルワールス系材料を扱うにあたって、応用物理分野で構造解析法を探究し、物質科学分野で合成や基礎物性に関する共同研究を行い、機械工学分野にて材料の力学や実用化を意識した企業共同研究を経験できたことで、物質科学コースにて高機能材料研究を深耕していくための貴重な学術的基盤が形成できたと思います。これまでに培った、透過電子顕微鏡観察下でナノスケールの単一物質、単一界面の構造を系統的に変化させながら電気、熱、熱電、機械特性を同時計測する技術を活かし、ナノスケール局所構造と特性の相関解明に直結する基礎研究を進めていきます。一方、最近では衝撃吸収剤・粘着テープ剤として優れた機能を有するカーボンナノチューブ凝集体の宇宙用途応用研究にも取り組んでおります。これらの研究を通じて、観ると同時に考え、専門知識の裏付けの元に発想できる力を有する、地道な研究開発を推進できる人材の育成に取り組んでいきます。

■ 小林範久先生、奥平幸司先生最終講義のお知らせ

これまで千葉大学工学部総合工学科物質科学コース、および前身の画像科学科、ナノサイエンス学科にて教育・研究に携わられてこられた、小林範久教授ならびに奥平幸司准教授が、2025年3月をもちまして定年ご退職となります。当コースでは、両先生の最終講義を2025年3月5日（水）に、千葉大学けやき会館大ホール（西

千葉キャンパス内）において開催することを予定しております。詳細につきましては、追って物質科学コースのホームページ（<https://www.tp.chiba-u.jp/ms/>）等でお知らせいたします。卒業生の皆様のご聴講をお待ちしております。

共生応用化学コース

■ コース近況報告

共生応用化学コース 学部コース長 三野 孝



卒業生の皆様、お変わりございませんでしょうか。日頃より、同窓会および第V部会への多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

共生応用化学コースでは、エネルギー変換材料化学研究室（現・高分子化学研究室）の唐津 孝先生が2024年3月31日付で定年退職され、2020年以来実施が難しかった退職記念事業も後述のように再開いたしました。また2023年10月には表面電気化学研究室の中村将志先生が准教授から教授に昇任され、2024年4月には精密有機化学研究室の吉田泰志先生が助教から准教授に昇任されました。特に吉田先生におかれましては、国際高等研究基幹の所属となりましたが、工学部を兼務され、今後も引き続き共生応用化学コースにおける教育研究にご尽力いただきます。

ところで、2024年3月に卒業した学生たちは、2020年4月に入学した学年であり、入学式が中止となり、オンライン授業を余儀なくされるという困難な状況を経験しました。彼らが初めて大学のキャンパスで一堂に会したのは、2020年10月になって対面で実施された化学基礎実験の際であり、担当教員としてだけでなく、担任として挨拶したことを今でも鮮明に覚えております。

学部入試に目を向けて見ますと、令和7年度入学者選抜（一般選抜）から、大学入学共通テストに新科目である「情報」が追加されます。また、共生応用化学コースでは、前期日程の個別学力検査において理科の科目の配点に変更され、化学が200点満点、物理が100点満点となり、化学を重視した配点となります。これにより、今まで以上に化学の素養を持つ学生の入学が期待されます。

一方、2年前の会報において当時の星 学部コース長から報告がありました工学部の新講義棟建設についてですが、共生応用化学コースがある6号棟の前の場所で現



建設中の新講義棟

在工事が進行中です。おそらく本年9月には完成し、後期の授業から使用される予定です。また他コースの建物では、10号棟が改修中であり、7号棟の改修が決定するなど、順次改修が進められており、共生応用化学コースの建物も近い将来改修されることが見込まれます。

また、千葉大学に隣接した東京大学生産技術研究所付属千葉実験所の跡地においても再開発が進行中です。



東大生産研跡地

2024年4月16日付の日本工業経済新聞社の記事によると、野村不動産を代表法人とする東大西千葉跡地計画コンソーシアム（構成法人：三井不動産、三井不動産レジデンシャル、三菱地所、三菱地所レジデンス、大和ハウス工業）が、800戸以上の共同住宅、有料老人ホーム、商業施設、アカデミック&スポーツ施設、介護施設、50棟以上の専用住宅、6階建ての学生マンションなどの建設を計画しているとのことで、完成予定の2028年夏には西千葉の街並みも大きく変わっていることと思います。また千葉大学も、東京大学の跡地の一部を購入し、産学連携事業として「西千葉well-beingリサーチパーク（仮称）」を計画しております。この計画に関連して、2023年度には日本学術振興会の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に千葉大学が採択され、共生応用化学コースの学生や教員が教育研究に利用する共用機器センターの高分解能質量分析装置や高分解能走査電子顕微鏡などの更新が予定されています。また500MHz核磁気共鳴装置など共生応用化学コース所有の4つの機器分析装置がコアファシリティ（全学共用研究設備機器）として認定され、今後数年間にわたって修理や保守の一部経費が措置される予定です。

最後になりますが、今後3年間で兼務を含め6名の教員が定年退職を迎えます。厳しい大学予算のため新任教員の採用が難しい状況ではありますが、教員減を感じさせないよう、残された構成員が一丸となって魅力ある共生応用化学コースを世に発信してまいりますので、引き続き、卒業生の皆様からの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ 教員／学生の授賞(2022.10～)

・教員の受賞

山田泰弘准教授(資源反応工学研究室)：炭素材料学会の学術賞／矢貝史樹教授(分子集合体化学研究室)：井上科学振興財団の第40回井上学術賞／



山田泰弘准教授の炭素材料学会の学術賞の受賞

・学生の受賞(口頭発表)

化学工学会 山形大会2023：特別賞 林あゆみさん(バイオプロセス化学研究室)、大塚康児さん(バイオマテリアル研究室)、学生奨励賞 霜田有里さん(バイオプロセス化学研究室)／粉体粉末冶金協会2023年度秋季大会：優秀講演発表賞 池田成人さん(セラミックス化学研究室)／第67回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会：第21回ベストプレゼンテーション賞 秋本南椰さん(精密有機化学研究室)／6th Growing Polymer Symposium in KANTO：Presentation Award 小倉 淑希さん(ソフト材料化学研究室)／基礎有機化学会 若手オンラインシンポジウム(第3回)：Chemical Science Presentation Prize 板橋裕毅さん(分子集合体化学研究室)／日本化学会第104春季年会(2024)：学生講演賞 玉木健太さん(分子集合体化学研究室)

・学生の受賞(ポスター発表)

The 13th SPSJ International Polymer Conference：Young Scientist Poster Award 相澤匠さん(分子集合体化学研究室)、Poster Award: ACS Polymers Au Award 齋藤卓穂さん(分子集合体化学研究室)／Fudan International Symposium 2023：WILEY Best Poster Award 須田奈月さん(分子集合体化学研究室)／RSC Tokyo International Conference 2023：RSC Best Presentation Award 齋藤雄平さん(バイオプロセス化学研究室)／2023年日本液晶学会討論会：虹彩賞 高橋輝さん(ソフト材料化学研究室)、前田芳紀さん(ソフト材料化学研究室)、若葉賞 日野暁文さん(ソフト材料化学研究室)、正木萌香さん(ソフト材料化学研究室)／第33回基礎有機化学討論会：学生ポスター賞 板橋裕毅さん(分子集合体化学研究室)／日本鉄鋼協会第186回秋季講演大会：学生ポスター優秀賞 淡路亮さん(計測化学研究室)、学生ポスター奨励賞 山本航

大さん(計測化学研究室)／第72回高分子討論会：優秀ポスター賞 三原聡太さん(分子集合体化学研究室)／10th International Symposium on Photochromism：Student Poster Prize 須田奈月さん(分子集合体化学研究室)／第13回CSJ化学フェスタ2023：最優秀ポスター発表賞 三原聡太さん(分子集合体化学研究室)、優秀ポスター発表賞 小倉淑希さん(ソフト材料化学研究室)、橘京香さん(ソフト材料化学研究室)、高屋敷一統さん(ソフト材料化学研究室)、渡邊拓さん(ソフト材料化学研究室)、田中駿乃介さん(表面電気化学研究室)、山下修平さん(分子集合体化学研究室)、上野貴大さん(分子集合体化学研究室)、秋場大知さん(分子集合体化学研究室)／化学工学会 第89年会：優秀学生賞 堀有音さん(バイオプロセス化学研究室)、学生奨励賞 齋藤雄平さん(バイオプロセス化学研究室)

・学生の受賞(その他)

第8回千葉大学セキュリティバグハンティングコンテスト：奨励賞 田中駿乃介さん(表面電気化学研究室)、趙佑鎮さん(表面電気化学研究室)、亀井拓郎さん(表面電気化学研究室)、谷水光一郎さん(表面電気化学研究室)／第6回千葉大学分子キラリティー研究センター学生ポスター発表会：優秀発表賞 大塚康児さん(バイオマテリアル研究室)、阿部史琉さん(バイオマテリアル研究室)

(キアリルカ 記)

■ 共生応用化学コース 就職状況報告

令和6年度(2025年3月)学部卒業生・博士前期課程修了生の就職活動は、本稿の執筆時点(2024年6月)で進行中であるため、昨今の傾向をご報告いたします。就職活動において新型コロナウイルス感染症の影響はほぼ収まっており、近年発達したオンラインでの活動が、かなり定着して参りました。以前、後援会からの補助により設置させて頂いたWeb会議用のブースは、現在も変わらず活用され続けております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。一方で、コース主催の仕事セミナーについては、全体の8割以上が対面で開催される様になりました。また、全国的な傾向として、OB・OGの方々による研究室への個別接触を重視する企業様が増えており、当コースでも数多くご訪問頂いております。

学部卒業生については、例年通り多くの学生が大学院進学を目指し、研究活動の合間を縫って受験準備を進めております。博士前期課程修了生については、これまでとほぼ同様に化学系メーカー様への就職が大勢を占める予定です。今年度も売り手市場とよばれる状況が続いておりまして、内々定を得たとの報告が続いております。特に博士前期課程の学生に対する引き合いが多く、新た

な求人情報が届き続けております。今年度も、年末頃まで求人が続くと考えられ、学部生が、大学院入試に合格できなかった際にも、求人が続いていると予測されます。

令和6年度の卒業生・修了生からインターンシップの定義が変わりました。本コースの学生は、業界・企業による説明会やイベントである5日未満の「オープンカンパニー」と、従来の職場における就業体験である5日以上の「汎用的能力・専門活用型インターンシップ」に参加する学生が増えつつあります。本コースにも昨年度の夏前から案内が届いておりまして、関連の情報をホームページで公開する体制を従来よりも早期に整え、説明会を開催いたしました。就職活動における学生の負担を減らすことにより、研究に費やすことのできる時間を十分に確保できるよう、サポートを続けたいと思います。

本コースでは、今後も後援会の皆様からのご支援のもと、学内での仕事セミナーや会社説明会などを実施し、学生への支援を行って参ります。また、研究室個別へのご訪問も随時承っております。ご要望などがございましたら遠慮なく就職担当にご連絡ください。就職活動のオンライン化により対面での接触機会が減りつつある中では、OB・OGの皆様が、ますます学生の拠り所になると存じます。今後とも、皆様からの温かいご支援、ご協力を頂きますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

(小島 隆 記)

■ 唐津孝先生退職記念講演会



唐津孝先生は、昭和56年3月に筑波大学第一学群自然科学類を卒業後、昭和61年3月に同大学院化学研究科を修了し、理学博士の学位を取得されました。その後、筑波大学化学研究科研究生、ユタ大学化学科博士研究員、テキサス大学オースチン校化学科博士研究員、筑波大学文部技官、筑波大学化学研究科助手を経て、平成元年4月に千葉大学講師（教養部）として着任されました。平成3年12月に助教授、平成17年4月に教授に昇任され、令和6年3月31日に定年退職されました。

唐津先生は、芳香族オレフィンの異性化反応やポリシランのエネルギー移動などの基礎から、印刷材料、レジスト、光造形型3Dプリンティング材料などのフォトポリマーへの応用に至るまで、幅広く研究を展開されました。なかでも、有機エレクトロルミネッセンス(EL)のりん光型発光材料として利用されているイリジウム錯体の発光過程の解明は、有機ELテレビの発光材料設計にも寄与しており、例えば令和4年8月に開催

された第33回配位化合物の光化学討論会の特別講演として招待されるに至っています。また、平成12年から令和4年まで実行委員長としてご尽力された国際学会 International Conference of Photopolymer Science and Technologyは、半導体製造に関わる世界中の研究者が集って最新の成果について情報交換を行う重要な場となっています。

教育面へのご貢献としましては、学部では一般教養科目、専門基礎科目、有機化学などの専門科目、大学院では物理有機化学などを担当されました。また、筑波大学、山形大学、防衛大学校、順天堂大学、東京工科大学などの非常勤講師も務められました。250名余の学部生、170名余の大学院生を指導された唐津先生の研究姿勢は、メカニズムが不明ではあるが興味深い現象に対して真正面から取り組むところに特徴があったように思います。化合物群の合成、分光学的手法、計算科学的手法による光機能材料の光物理化学的特性の評価を通して、包括的な理解に繋げる手法には、学ぶべきところが多くありました。学生に対する親身な指導と併せて、今後の研究室運営に活かしたいと思います。

唐津先生は、平成22年度に共生応用化学科学科長、平成23年度に共生応用化学専攻専攻長、平成30年度に共生応用化学コース学部コース長、令和元年度に共生応用化学コース学府コース長を務めました。学内委員としては、平成21-22年度に工学部国際交流委員会委員長、平成22年度に学部教育委員会委員長、平成27-28年度に入試委員会委員長、平成28-29年度に共用機器センター長を務めるなど、本学の運営に対しても貢献されました。

令和6年3月9日に三井ガーデンホテル千葉において、退職記念講演会および祝賀会を開催しました。同窓生、本学教職員、研究室の学生、学外関係者を合わせた160名の参加者のみなさまには、実験室で談笑する唐津先生の口癖を印刷した名札を配布しました。唐津先生には「光輝く光化学とともに」の講演タイトルで、光化学の基礎から最近の研究成果に至るまで、先生の生い立ちのご紹介や懐かしい写真を交えてご講演いただきました。ご講演の締めには、唐津先生がご家族に感謝され、感極まる様子も見られました。そのお人柄に触れ、我々も胸が熱くなりました。唐津先生が定年まで無事に勤め上げられましたことを嬉しく思う一方で、寂しい気持ちにもなりますが、旧交を温める絶好の機会となりました。唐津先生は、退職後も近隣の大学で学生実験の指導などを担当されていると伺っております。今後ともご健康に留意され、ご活躍なさることを祈念いたします。

(谷口竜王・矢貝史樹・青木大輔・増野玲子 記)

松 芸 展

■ 第16回 松芸展のお知らせ

来年2025年4月13日～19日の間、第16回松芸展を有楽町・東京交通会館1階ギャラリーパールルームで開催



催いたします。当会は千葉大建築学科同窓生なら何方でも参加できますので、奮って参加ください。作品は平面作品（油彩、水彩、アクリル、日本画、版画）、立体作品（陶芸、彫刻）を対象としております。今年2024年の参加者は代表の安生満はじめ8名、41点の出展（一人5点～7点、6号～10号）がありました。同窓の方、絵画愛好の方のご来場をお待ちしております。

松芸展代表 安生 満（1954年卒）
同 事 務 局 田口 裕一（1962年卒）
電話：080-2042-4628
Mail：geelbec@gmail.com

凡 展

1990年以来、2019年には30回を重ね、コロナ禍で中止せざるを得なかった2年を挟み、2022年3年ぶりに再開、昨年には第32回を無事開催することができました。今年も9月29日～10月5日の7日間、東京交通会館（東京・有楽町）にて第33回凡展を開催します。このグループ展の大きな特徴である、絵画や写真、CG、書、立体造形など、幅広いジャンルの作品が今回も寄せられる予定です。昨年にも増してより充実した出品作をお楽しみください。

また、本展は一般来場者だけでなく、出品者の同窓生や先輩・後輩たちの交流の場ともなっており、今後も和やかさを大切にする本展の特色を損なうことの無いよう、会場運営にもさらに配慮していきます。来場者の皆さまにもご協力をお願いしながら、何とか無事に最終日が迎えられることを願っています。

こうしたグループ展はどれも出品者の高齢化という課題を抱えているようですが、人生100年といわれる時代、より豊かな暮らしの楽しみの場となるよう、今後も本展の志を新たに、可能な限り継続に努めてまいります。そのため凡展では随時、新メンバーを募集しています。

開催状況は工学部同窓会のホームページでもご紹介していきますので、ぜひ一度ご来場のうえ雰囲気を感じていただき、新たなメンバーのご参加を心より歓迎・お待ちしております。

本展開催にあたっては、これまで大学関係者や同窓生の皆さまのご支援をいただき、心より感謝しております。今後とも引き続きましてご支援のほど、よろしく願いいたします。



第32回凡展(2023年)出品者

凡展代表：水野 晃一（意匠9回卒）
事 務 局：蔦谷 邦夫（意匠25回卒）
連 絡 先：電話 090-8877-3409、メール tsuta-3@nifty.com
千葉大学工学同窓会 凡展HP：https://chiba-kougaku-dosokai.jp/?page_id=927



令和5年度事業報告

令和5年4月1日から令和6年3月31日までに実施した主な事業について、以下のとおり報告します。

令和5年度に計画されていた行事については、オンライン会議の併用もあり、ほぼ予定どおりに実施されました。

1. 工学同窓会会報の編集・発行

令和5年11月17日に第50号(全32ページ、24,401部)を会員に発送しました。

会報には、工学部創立100周年記念事業の趣意書ならびにご寄付のお願いも掲載しました。

2. 令和5年度工学同窓会総会および懇親会

令和5年6月3日に松韻会館1階第1会議室にて(ネット併用)総会を開催しました。総会では、まず令和4年度事業報告・決算報告・会計監査報告があり、原案どおり承認されました。次いで原正樹会長が議長として指名され、令和5年度事業計画・予算案の提案があり、原案どおり承認されました。

最後に校友会活動の報告、100周年記念事業の報告およびご支援のお願いがありました。

懇親会はコロナ禍により中止することとなりました。

3. 学生活動への支援

例年どおり、工学部学生が主体となっている課外活動に対し、5団体(フォーミュラ・プロジェクト、ロボコン、卒業設計2024、CUAD、意匠展2024)に総額100万円を支援しました。

4. 新入生・卒業生および退職教員への記念品贈呈

新入生(編入含む)688名に多色ボールペン、男性卒業生(前期卒業含む)542名にネクタイペン、女性卒業生(前期卒業含む)121名にリングを贈呈しました。さらに同窓会にご貢献いただいた渡邊慎二先生に金のネクタイペンを退職記念として贈呈しました。

5. 工学部への支援

会費徴収等でもお世話になっている工学部の各種活動にも賛助金として支援しました。

6. 非常勤講師に対する援助

実社会で活躍されている学外講師による講義の実施のために、講演謝金を援助しました。

7. 千葉大学校友会

令和5年11月3日に西千葉キャンパス事務局棟5階第1会議室にて令和5年度校友会総会が対面とオンライン併用にて開催され、工学同窓会から会長、工学部長、幹事長が列席し、他学部同窓会会員との親睦・情報交換が行われました。

8. 工学部創立100周年記念事業

令和5年4月14日第1回から令和6年3月29日第9回まで、ほぼ毎月のペースで100周年記念事業準備委員会を開催し、具体的な事業計画の策定にとりかかりました。

令和5年度 千葉大学工学同窓会 決算

■収入の部 (単位：円)

費目	予算①	決算②	①－②
前年度繰越金	170,607	170,607	0
入会金	6,580,000	6,320,000	260,000
会費	2,000,000	1,504,000	496,000
寄附金	2,200,000	2,368,710	△168,710
総会参加費	50,000	0	50,000
利息・雑収入	10	0	10
特別会計から繰入	2,500,000	2,589,291	△89,291
合計	13,500,617	12,952,608	548,009

■支出の部 (単位：円)

費目	予算①	決算②	①－②
会報編集発行費	4,720,000	5,061,225	△341,225
入学・卒業記念品費	1,000,000	1,133,770	△133,770
総会経費	100,000	27,091	72,909
名簿管理費	220,000	220,000	0
HP費	180,000	184,800	△4,800
部会・支部活動補助費	630,000	625,000	5,000
工学部賛助金	600,000	600,000	0
校友会費	150,000	150,000	0
学生援助費	1,000,000	1,000,000	0
非常勤講師援助費	410,000	400,000	10,000
会議費	30,000	7,093	22,907
渉外費	40,000	37,901	2,099
学内懇親会費	100,000	50,751	49,249
慶弔費	30,000	0	30,000
郵送通信費	460,000	471,528	△11,528
交通費	90,000	80,680	9,320
幹事担当部会運営費	10,000	0	10,000
事務員費	1,000,000	983,400	16,600
消耗品費	50,000	15,259	34,741
事務運営費	10,000	0	10,000
事務室備品費	10,000	0	10,000
雑費	50,000	39,700	10,300
創立100周年記念事業費	2,600,000	1,777,923	822,077
予備費	10,617	0	10,617
(繰越金)	0	86,487	△86,487
合計	13,500,617	12,952,608	548,009

収入・支出において、予算額との大きな増減があった費目について、具体的な内容は以下のとおりです。

〈収入〉

- ・入会金、会費の納入が逐年減少しているため収入減少。

〈支出〉

- ・会報編集発行費：100周年記念事業のチラシを会報に加えただため支出増加。
- ・入学・卒業記念品費：入学記念品(ボールペン)の準備以後に情報・データサイエンス学部の工学同窓会加入が決まり、同入学生分の再発注(単価アップ)により支出増加。
- ・創立100周年記念事業：コロナ禍等により事業全体の遅れが生じ支出減少。

2024(令和6)年度総会・懇親会について

令和6年6月1日(土)、千葉大学工学同窓会定期総会を開催いたしました。本年度は、4年ぶりに対面のみで千葉大学けやき会館3階レセプションホールに20名を超える会員をお迎えして開催することができました。会場には昨年に引き続き、伊藤智義名誉会長、杉木清彦顧問ほか役員にご出席いただきました。総会は、まず原正樹会長が議長として指名され、幹事長の佐藤公信教授(I部会)の司会のもと始まりました。最終的な出席者は40名でした。

■令和5年度事業報告ならびに決算報告・会計監査報告：太田匡則会計監事(Ⅲ部会)ならびに所用で欠席の井上勝雄外部監査委員からの、会報関連の経費増加に対する対応策とDX化の推進についてのコメントが紹介されました。これらの議案について、賛成多数にて承認されました。

■新学部設置に伴う会則の改正：令和6年度から情報・データサイエンス学部が新設されることに伴い、第4条第2項に準会員の本文に同組織を明文化し、第6条第1項役員等の選出に、現行の名誉会長には「工学部長」を、名誉副会長には「情報・データサイエンス学部長」をそれぞれ推戴することとし、賛成多数にて承認されました。この議決結果を受け、塩田茂雄名誉副会長からご挨拶をいただきました。

■会費増額の改正

「昨今の諸物価の高騰等により、現状の活動、事業が維持できず、また100周年記念事業とも重なり財政が逼迫する事態となっています。事業を見直す努力は続けるものの非常に厳しい状況を打破するため、会費を1,000円から2,000円に値上げしたい。」との説明があり、審議の結果、現状のHPの外部委託をクラウドサーバーで行なうことで費用を削減、新入生からの入会金納入

率の減少への対応として同窓会の活動を十分にアピールするなど、具体的な対応策を実施することを確認し、参加者全員の賛成により承認されました。なお平成6年度からは、学部を卒業した時点で正会員となり年会費を納入していただくこととなっております。会員の皆様におかれましては、引き続き、ご理解、ご支援いただきますよう、何卒お願い申し上げます。

■その他の報告

佐藤校友会幹事から校友会の実施内容について報告がありました。小塚100周年記念事業実行委員会委員長より100周年記念事業計画に関して報告があり、コロナの影響により遅れていた記念誌出版について、予算が逼迫しており、改めて寄付のお願いがされました。

最後に、司会の佐藤幹事長より閉会宣言があり、総会は終了しました。同窓会の総会を終了後、昨年度までコロナ禍の影響を考慮して中止しておりました、以下の各学生団体による前年度の活動報告が代表者出席のもと活発に行われました。

■各学生5団体による前年度の活動報告

- ①千葉大学フォーミュラプロジェクト
- ②ロボコン(CRS:Chiba.Robot.Studio)
- ③建築学コース卒業設計展2024
- ④CUAD
- ⑤デザインコース意匠展2024

■懇親会

総会終了後、千葉大学生協2階フードコートにて、4年ぶりで懇親会を催すことができ、会員の皆様の懇親の場が戻りましたことを大変嬉しく思いました。学生活動報告で発表した学生も参加し、先輩との年齢を超えた交流がなされ、盛会のうちにお開きとなりました。



総会での審議



学生団体による活動報告

寄附者一覧

(注) 特は特別会員(現旧職員、ただし正会員は除く)、()内は所属部会
令和5年度(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

<p>■ 150口 ■ 千葉大学S38機械科クラス会 (Ⅲ)</p> <p>■ 100口 ■ 松井 千里 (Ⅱ) 三浦 邦夫 (Ⅲ)</p> <p>■ 99口 ■ 松谷 貫司 (Ⅲ)</p> <p>■ 20口 ■ 小野原 勉 (Ⅲ)</p> <p>■ 15口 ■ 大坪 将史 (電機)</p> <p>■ 14口 ■ 米地 正大 (電機)</p> <p>■ 10口 ■ 安齋 利典 (Ⅰ) 古見澤浩一 (Ⅰ) 豊田 和夫 (Ⅰ) 岩瀬 真理 (Ⅱ) 牛山 泰秀 (Ⅱ) 山田 陽二 (Ⅲ) 玉沢 学 (Ⅳ) 寺川 隆成 (Ⅳ) 朝富 良次 (Ⅴ) 木村 和男 (Ⅴ) 関根 均 (Ⅴ) 田中 秀典 (Ⅴ) 福田 芳雄 (Ⅴ) 未光 裕治 (Ⅵ) 吉村 友樹 (院全) 生明英一郎 (物工) 伊藤 功軌 (総工) 石川 輝明 (総工) 上田玲央斗 (総工)</p> <p>■ 9口 ■ 原田 敏男 (Ⅰ) 尾上 孝一 (Ⅱ) 大久保雄司 (Ⅱ) 友水 宏之 (Ⅱ) 猪野 三夫 (Ⅲ) 橋本 一雄 (Ⅲ) 松谷 正明 (Ⅲ) 柳澤 章 (Ⅲ) 田中大一郎 (Ⅳ) 中富 仁 (Ⅳ) 阿久津文彦 (Ⅴ) 川舩 正康 (Ⅴ) 河村 信夫 (Ⅴ)</p>	<p>原田 文明 (Ⅴ) 兵藤 厚志 (Ⅴ) 中田 宏幸 (電機) 川瀬 貴晴 (職員)</p> <p>■ 7口 ■ 緒方 一裕 (Ⅲ) 伊藤 邦男 (Ⅴ)</p> <p>■ 6口 ■ 成毛喜一郎 (Ⅳ)</p> <p>■ 5口 ■ 竹原あき子 (Ⅰ) 千葉 哲彦 (Ⅰ) 水野 晃一 (Ⅰ) 江本 次幹 (Ⅱ) 青木 一郎 (Ⅲ) 新垣 強二 (Ⅲ) 小川 秀雄 (Ⅲ) 小川 秀司 (Ⅲ) 藤代 裕 (Ⅲ) 丹野 雅行 (Ⅳ) 中山 陽一 (Ⅳ) 比田井 裕 (Ⅳ) 吉田 暢 (Ⅳ) 小川 泰治 (Ⅴ) 小林 徹 (Ⅴ) 関口 洋一 (Ⅴ) 福山賛次郎 (Ⅴ) 堀田 祐司 (Ⅴ) 吉田 幸司 (Ⅴ) 矢野 定基 (Ⅶ) 新村 和彦 (Ⅹ) 押田 祐希 (院全) 塩川 安彦 (職員)</p> <p>■ 4口 ■ 赤羽 純 (Ⅰ) 浅野 英昭 (Ⅰ) 森 美恵 (Ⅰ) 森川 明 (Ⅰ) 坂口 守夫 (Ⅱ) 椎名 國雄 (Ⅱ) 菅野 良司 (Ⅱ) 田邊 宏志 (Ⅱ) 鳥山 壮一 (Ⅱ) 内藤 洪一 (Ⅱ) 松本 和浩 (Ⅱ) 森 勝一 (Ⅱ) 若松 永 (Ⅱ) 海老原吉弘 (Ⅲ)</p>	<p>河田 進 (Ⅲ) 菊池 隆司 (Ⅲ) 小杉 夏彦 (Ⅲ) 小林 春彦 (Ⅲ) 古作 康幸 (Ⅲ) 佐々木裕幸 (Ⅲ) 大角 忠 (Ⅲ) 津下 豊彦 (Ⅲ) 出口 伸幸 (Ⅲ) 野老 秀光 (Ⅲ) 富山 武史 (Ⅲ) 長浜 孝夫 (Ⅲ) 馬場 和幸 (Ⅲ) 福田聡三郎 (Ⅲ) 山下 嘉久 (Ⅲ) 山本 賀彦 (Ⅲ) 飯塚 矩規 (Ⅳ) 蔭山 之雄 (Ⅳ) 茂呂 昌男 (Ⅳ) 飯島 剛 (Ⅴ) 大谷 博之 (Ⅴ) 織茂 公孝 (Ⅴ) 上條 達幸 (Ⅴ) 砂原 一夫 (Ⅴ) 浜田 孝夫 (Ⅴ) 原 勇一 (Ⅴ) 森 元 (Ⅴ) 芳野 禎文 (Ⅴ) 若松 二郎 (Ⅴ) 入山 隆 (Ⅵ) 日比野繁雄 (Ⅵ) 川口 晃平 (院全) 工藤 泰代 (院全) 武川 毅 (院全) 福地 武彰 (院全) 神山 望 (電機)</p> <p>■ 3口 ■ 澤口 正武 (Ⅰ) 富田 明朗 (Ⅰ) 羽中田政樹 (Ⅰ) 岡田 岩雄 (Ⅱ) 小島 健司 (Ⅱ) 関口 正巳 (Ⅱ) 善養寺圭吾 (Ⅱ) 柳澤 朋夫 (Ⅱ) 山田 憲司 (Ⅱ) 渡辺 光雄 (Ⅱ) 阿波野康彦 (Ⅲ)</p>	<p>菊池 健二 (Ⅲ) 笹川 俊勝 (Ⅲ) 未永 時和 (Ⅲ) 戸羽 貴弥 (Ⅲ) 中村 雅勇 (Ⅲ) 林 侑孝 (Ⅲ) 林 静男 (Ⅲ) 山倉 広之 (Ⅲ) 小笠原弘適 (Ⅳ) 恩田 信彦 (Ⅳ) 草野 祐一 (Ⅳ) 田村 重雄 (Ⅳ) 永地 康人 (Ⅳ) 平塚今朝人 (Ⅳ) 竹村 利男 (Ⅴ) 地曳 広志 (Ⅴ) 中村 憲史 (Ⅴ) 原 健 (Ⅴ) 村雄 弘尚 (Ⅴ) 山崎 泰洋 (Ⅴ) 穂谷 久人 (Ⅶ) 片山 亮吾 (Ⅶ) 貫井 義昭 (Ⅶ) 後藤 尚子 (Ⅵ/Ⅶ) 柏原 久人 (Ⅹ) 上村 篤輝 (院全)</p> <p>■ 2口 ■ 赤羽 元英 (Ⅰ) 大沢 隆男 (Ⅰ) 岡田 優 (Ⅰ) 岡本 浩志 (Ⅰ) 香西 一雄 (Ⅰ) 哥 瑞恵 (Ⅰ) 金子 元治 (Ⅰ) 神谷 清 (Ⅰ) 神谷 由紀 (Ⅰ) 北山 睦人 (Ⅰ) 児玉 萬平 (Ⅰ) 鈴木七七夫 (Ⅰ) 関 壮一 (Ⅰ) 野口 尚孝 (Ⅰ) 宮崎 清 (Ⅰ) 安藤 伸治 (Ⅱ) 井田 良市 (Ⅱ) 今関 一美 (Ⅱ) 大家 教正 (Ⅱ) 大林 和彦 (Ⅱ)</p>	<p>大室 裕 (Ⅱ) 太田 達見 (Ⅱ) 長田 勝彦 (Ⅱ) 加藤由紀子 (Ⅱ) 加藤 宏一 (Ⅱ) 金沢 健蔵 (Ⅱ) 神谷 宏紀 (Ⅱ) 神山 正樹 (Ⅱ) 茅島 正吉 (Ⅱ) 茅島恵美子 (Ⅱ) 久保寺 淳 (Ⅱ) 小林 孝至 (Ⅱ) 小林 良洋 (Ⅱ) 佐藤 明子 (Ⅱ) 清水 四郎 (Ⅱ) 柴原 達明 (Ⅱ) 鈴木 忠道 (Ⅱ) 関森 宗路 (Ⅱ) 田口 裕一 (Ⅱ) 高橋 八朗 (Ⅱ) 高原 正弘 (Ⅱ) 竹生 敏俗 (Ⅱ) 谷口 寛明 (Ⅱ) 塚田 英武 (Ⅱ) 土屋 明子 (Ⅱ) 徳田 彰士 (Ⅱ) 西山 正春 (Ⅱ) 原 健二 (Ⅱ) 古戸 睦子 (Ⅱ) 三国 政勝 (Ⅱ) 三好 尚武 (Ⅱ) 宮内 愨 (Ⅱ) 安田征一郎 (Ⅱ) 山崎 眞詠 (Ⅱ) 吉崎 春雄 (Ⅱ) 吉田 龍生 (Ⅱ) 安達 博一 (Ⅲ) 麻生 正 (Ⅲ) 荒井 茂 (Ⅲ) 伊藤 宏治 (Ⅲ) 池田克登志 (Ⅲ) 岩本 光則 (Ⅲ) 梅津 浩 (Ⅲ) 瓜谷 優一 (Ⅲ) 大木 繁夫 (Ⅲ) 岡本 保孝 (Ⅲ) 川尻 順一 (Ⅲ) 倉林 克行 (Ⅲ)</p>
--	--	--	--	--

桑原 健郎 (Ⅲ)	三浦眞由美 (Ⅳ)	有川 徹 (Ⅶ)	富岡 慶 (Ⅰ)	森 敏章 (Ⅱ)
小林 貞彦 (Ⅲ)	三宅 正高 (Ⅳ)	淡路 延也 (Ⅶ)	中野 正孝 (Ⅰ)	矢作 茂 (Ⅱ)
小間喜三郎 (Ⅲ)	御園 信行 (Ⅳ)	九門 明 (Ⅶ)	中村麻日奈 (Ⅰ)	山岸 正晴 (Ⅱ)
小山 裕 (Ⅲ)	村上 豪厚 (Ⅳ)	清水 忠 (Ⅶ)	前川 健 (Ⅰ)	吉田 英雄 (Ⅱ)
斎藤 徹 (Ⅲ)	村上 武志 (Ⅳ)	定田 明 (Ⅶ)	松木 恭子 (Ⅰ)	荒木 武夫 (Ⅲ)
白子 行成 (Ⅲ)	矢地 竹男 (Ⅳ)	手塚 景二 (Ⅶ)	安井 敏 (Ⅰ)	井上 勉 (Ⅲ)
鈴木 誠 (Ⅲ)	吉田 生雄 (Ⅳ)	中島 昭博 (Ⅶ)	山田 卓生 (Ⅰ)	井上 浩一 (Ⅲ)
関 知耻忠 (Ⅲ)	石丸 貞冬 (Ⅴ)	沼野 博文 (Ⅶ)	米村 勉 (Ⅰ)	伊野 敏道 (Ⅲ)
相馬 一朗 (Ⅲ)	稲木 秀次 (Ⅴ)	松根 格 (Ⅶ)	阿部 隆廣 (Ⅱ)	伊東 良真 (Ⅲ)
園田 治朗 (Ⅲ)	梅田 正造 (Ⅴ)	山田 秀夫 (Ⅶ)	伊藤 明 (Ⅱ)	生駒 達一 (Ⅲ)
田辺 和一 (Ⅲ)	太田 正和 (Ⅴ)	酒井 伸和 (Ⅵ/Ⅶ)	池澤 信之 (Ⅱ)	石井ひでみ (Ⅲ)
武井 健治 (Ⅲ)	奥山 敏樹 (Ⅴ)	渋谷 岳人 (Ⅵ/Ⅶ)	石橋 実 (Ⅱ)	市川 浩伸 (Ⅲ)
武之内教男 (Ⅲ)	蕪木 健二 (Ⅴ)	山本 衛 (Ⅵ/Ⅶ)	石原 弘仁 (Ⅱ)	岩井 隆夫 (Ⅲ)
富澤 務 (Ⅲ)	紙 英利 (Ⅴ)	福永 博哉 (Ⅸ)	岩崎 哲朗 (Ⅱ)	上田 俊弘 (Ⅲ)
中村 良太 (Ⅲ)	川嶋 静雄 (Ⅴ)	安藤 賢孝 (Ⅹ)	江川 太吉 (Ⅱ)	小口 博義 (Ⅲ)
永田 朗 (Ⅲ)	河辻 輝之 (Ⅴ)	圓崎 直之 (Ⅹ)	賀井伸一郎 (Ⅱ)	加藤 次雄 (Ⅲ)
根本 一郎 (Ⅲ)	栗原 信介 (Ⅴ)	岡野 直美 (Ⅹ)	木下 理智 (Ⅱ)	覚張 文夫 (Ⅲ)
蠅庭 正信 (Ⅲ)	小島 弘 (Ⅴ)	清水いそ江 (Ⅹ)	木谷 勤治 (Ⅱ)	木村 徹 (Ⅲ)
英 聖一 (Ⅲ)	小林 敬古 (Ⅴ)	鈴木 純子 (Ⅹ)	喜地 良男 (Ⅱ)	菊地 英俊 (Ⅲ)
廣瀬 喜明 (Ⅲ)	斎藤 晴夫 (Ⅴ)	長谷川雄祐 (Ⅹ)	桐谷 治孝 (Ⅱ)	小池 幸仁 (Ⅲ)
廣橋 光治 (Ⅲ)	杉森 由章 (Ⅴ)	赤江 信哉 (院全)	楠原 素子 (Ⅱ)	小池 憲浩 (Ⅲ)
福田 忠夫 (Ⅲ)	杉山 武 (Ⅴ)	稲垣 友梨 (院全)	栗谷川哲雄 (Ⅱ)	小池 範彦 (Ⅲ)
本忠 瑞穂 (Ⅲ)	鈴木 淳 (Ⅴ)	浦部 裕亮 (院全)	近藤 昭男 (Ⅱ)	小出 富夫 (Ⅲ)
三代川滋則 (Ⅲ)	田中 聖之 (Ⅴ)	佐藤 彰人 (院全)	後藤 和司 (Ⅱ)	佐藤 雄三 (Ⅲ)
村瀬 英俊 (Ⅲ)	高坂 信夫 (Ⅴ)	森 優貴 (院全)	佐藤 光徳 (Ⅱ)	佐宗 美則 (Ⅲ)
山口 正明 (Ⅲ)	高橋 建司 (Ⅴ)	和田 賢二 (院全)	斎藤 敏夫 (Ⅱ)	須山 潤一 (Ⅲ)
山澤 智仁 (Ⅲ)	辰野 仁 (Ⅴ)	佐々木麻美 (物工)	作間 健 (Ⅱ)	鈴木 重平 (Ⅲ)
吉沼 幹夫 (Ⅲ)	反保 一雄 (Ⅴ)	小林 航 (電機)	清水 猛 (Ⅱ)	鈴木 幹人 (Ⅲ)
米田 喬 (Ⅲ)	中澤 大地 (Ⅴ)	角田祥次郎 (電機)	鈴木 健久 (Ⅱ)	田川 正洋 (Ⅲ)
筋 伸一 (Ⅳ)	長谷川清和 (Ⅴ)	若菜 正誠 (電機)	瀬川二三男 (Ⅱ)	田谷 耕一 (Ⅲ)
畔上 栄輔 (Ⅳ)	平田 和広 (Ⅴ)	市川 稜 (総工)	瀬戸 守 (Ⅱ)	谷本 信雄 (Ⅲ)
天野 譚溥 (Ⅳ)	府中 裕一 (Ⅴ)	青柳 象平 (職員)	関 克博 (Ⅱ)	千葉 全紀 (Ⅲ)
井出 雅陽 (Ⅳ)	増田 啓司 (Ⅴ)	■ 1口 ■	田中 純一 (Ⅱ)	徳屋 友彦 (Ⅲ)
井本 一彦 (Ⅳ)	三田菜穂子 (Ⅴ)	池ノ谷真司 (Ⅰ)	田中 健太 (Ⅱ)	中村 仁 (Ⅲ)
伊藤 克 (Ⅳ)	梁田 賢悦 (Ⅴ)	岩間由紀子 (Ⅰ)	田中 絹子 (Ⅱ)	中村 一馬 (Ⅲ)
今田 伸司 (Ⅳ)	油井 雅之 (Ⅴ)	小内 朝子 (Ⅰ)	高橋 浩治 (Ⅱ)	中村 正 (Ⅲ)
岩瀬 健志 (Ⅳ)	吉田 博 (Ⅴ)	面矢 慎介 (Ⅰ)	竹中 一雄 (Ⅱ)	根岸 廣介 (Ⅲ)
小久保 優 (Ⅳ)	池田 一恵 (Ⅵ)	川添 集朗 (Ⅰ)	塚越 潤 (Ⅱ)	日野 俊昭 (Ⅲ)
佐藤 光一 (Ⅳ)	今城 力夫 (Ⅵ)	木村 宏 (Ⅰ)	塚本 正臣 (Ⅱ)	日向 武夫 (Ⅲ)
篠原 稔 (Ⅳ)	斉藤 光範 (Ⅵ)	栗原志緒里 (Ⅰ)	手島 雅生 (Ⅱ)	平井 秀明 (Ⅲ)
相馬 毅 (Ⅳ)	瀬戸口宣彦 (Ⅵ)	小嶋 良一 (Ⅰ)	長瀬 悟 (Ⅱ)	広瀬 次郎 (Ⅲ)
田中 皓而 (Ⅳ)	高橋 恭介 (Ⅵ)	小林尉之輔 (Ⅰ)	丹羽 正徳 (Ⅱ)	福田 昭 (Ⅲ)
田辺 喜彦 (Ⅳ)	土屋 元彦 (Ⅵ)	小林 宏司 (Ⅰ)	西本 好男 (Ⅱ)	藤田 尚美 (Ⅲ)
高須 伸夫 (Ⅳ)	中村 勝利 (Ⅵ)	佐藤 中信 (Ⅰ)	橋本 康夫 (Ⅱ)	松井 雅男 (Ⅲ)
高橋 盛広 (Ⅳ)	平林 利文 (Ⅵ)	斎藤 共永 (Ⅰ)	引地 健彦 (Ⅱ)	松本 嘉己 (Ⅲ)
高山 建三 (Ⅳ)	福田 信 (Ⅵ)	酒井 重彌 (Ⅰ)	藤本 匡 (Ⅱ)	三宅 伸治 (Ⅲ)
武田 広也 (Ⅳ)	水野 明德 (Ⅵ)	澤田 均 (Ⅰ)	増田 俊一 (Ⅱ)	村崎 基 (Ⅲ)
塚本 允孜 (Ⅳ)	宮田 弘幸 (Ⅵ)	渋谷 久紀 (Ⅰ)	宮本 圭一 (Ⅱ)	守谷 祐之 (Ⅲ)
階上 保 (Ⅳ)	山口 弘 (Ⅵ)	高橋 和靖 (Ⅰ)	村上 博樹 (Ⅱ)	森岡 光 (Ⅲ)
飛田 起一 (Ⅳ)	山本 明 (Ⅵ)	垂水 茂喜 (Ⅰ)	村中 恭一 (Ⅱ)	諸橋 久重 (Ⅲ)
松尾 達樹 (Ⅳ)	吉岡 正 (Ⅵ)	寺田 重順 (Ⅰ)	室 英治 (Ⅱ)	山岸 祐二 (Ⅲ)

山口 優 (Ⅲ)	橋本 聡 (Ⅳ)	物井 惠一 (Ⅴ)	渡辺 幸保 (Ⅵ)	高橋 和克 (Ⅹ)
山崎 英昭 (Ⅲ)	林 孝明 (Ⅳ)	守 敏男 (Ⅴ)	石渡 次郎 (Ⅶ)	塚越愛樹彦 (Ⅹ)
山本 直樹 (Ⅲ)	藤枝 昌行 (Ⅳ)	山田 信彦 (Ⅴ)	岩田 耕平 (Ⅶ)	古月 美惠 (Ⅹ)
山本 昭彦 (Ⅲ)	藤倉 信之 (Ⅳ)	山本 晋介 (Ⅴ)	蛭原富司也 (Ⅶ)	山口 英明 (Ⅹ)
脇田 康之 (Ⅲ)	古川 秀樹 (Ⅳ)	渡辺 光司 (Ⅴ)	小沼 雅裕 (Ⅶ)	山田 芳則 (Ⅹ)
渡辺 信彦 (Ⅲ)	細井 正男 (Ⅳ)	浅井 禎和 (Ⅵ)	大塚 武史 (Ⅶ)	弓田 博 (Ⅹ)
安部 英樹 (Ⅳ)	松原 聡志 (Ⅳ)	厚見 透 (Ⅵ)	大庭 幸雄 (Ⅶ)	吉井 昭宏 (Ⅹ)
青木 基郎 (Ⅳ)	丸山 敏夫 (Ⅳ)	荒牧 哲 (Ⅵ)	柏原 克昭 (Ⅶ)	長田 直 (院全)
伊藤 幹雄 (Ⅳ)	三國 宏一 (Ⅳ)	井上 充夫 (Ⅵ)	喜多村 淳 (Ⅶ)	小林 隆太 (院全)
池田 健二 (Ⅳ)	見月 真人 (Ⅳ)	石田 浩男 (Ⅵ)	北村 孝司 (Ⅶ)	鈴木 孝誌 (院全)
上野 文男 (Ⅳ)	宮治 通雄 (Ⅳ)	遠田 満 (Ⅵ)	清時 竹彦 (Ⅶ)	原田陽紗子 (院全)
上野 豊 (Ⅳ)	茂木 節雄 (Ⅳ)	小田 透 (Ⅵ)	久家 毅 (Ⅶ)	吉井 孝子 (院全)
薄葉 光弘 (Ⅳ)	茂出木敏雄 (Ⅳ)	大澤 郁夫 (Ⅵ)	小出 敏明 (Ⅶ)	竜崎 達也 (院全)
榎並 誠 (Ⅳ)	山本 吾郎 (Ⅳ)	大原 仁 (Ⅵ)	佐々木 孝 (Ⅶ)	曲澤 学 (院全)
小原 健司 (Ⅳ)	安西 敏彦 (Ⅴ)	長田 利幸 (Ⅵ)	榊原 由典 (Ⅶ)	大井 一伸 (院全)
尾崎 元昭 (Ⅳ)	池永淳一郎 (Ⅴ)	織間 勇 (Ⅵ)	島 基之 (Ⅶ)	野中 悠司 (院全)
岡 裕太郎 (Ⅳ)	石井 尚文 (Ⅴ)	影山 雅英 (Ⅵ)	新宮領 慧 (Ⅶ)	本間慎一朗 (院全)
鬼塚 利行 (Ⅳ)	石塚 洋 (Ⅴ)	金盛 恵子 (Ⅵ)	鈴木 敦 (Ⅶ)	山宮 悠平 (院全)
加藤 裕之 (Ⅳ)	岩瀬 章代 (Ⅴ)	小出 哲司 (Ⅵ)	鈴木 将夫 (Ⅶ)	岡 綾子 (メ)
金子 啓三 (Ⅳ)	上田 卓是 (Ⅴ)	佐藤 樹 (Ⅵ)	多田 尚弘 (Ⅶ)	吉田 侑基 (メ)
金澤 伸春 (Ⅳ)	内本 吉博 (Ⅴ)	斉藤 延夫 (Ⅵ)	高木 克彦 (Ⅶ)	佃 えり子 (物工)
兼八 薫 (Ⅳ)	浦和茂登男 (Ⅴ)	斉藤 彰 (Ⅵ)	竹原 悟 (Ⅶ)	濱野 一平 (物工)
木戸 淳子 (Ⅳ)	加藤 崇 (Ⅴ)	白鳥真太郎 (Ⅵ)	土屋 宜司 (Ⅶ)	松田 高博 (物工)
菊地 大介 (Ⅳ)	香川 喬 (Ⅴ)	地引 勝 (Ⅵ)	中田 規夫 (Ⅶ)	志村 祥隆 (画像)
岸田 勇 (Ⅳ)	片川 芳郎 (Ⅴ)	杉本彩二郎 (Ⅵ)	中村 幹 (Ⅶ)	福本 充範 (画像)
倉上 一郎 (Ⅳ)	上條 堅次 (Ⅴ)	杉山 聰 (Ⅵ)	西 邦夫 (Ⅶ)	氏原 芳朗 (電機)
小坂橋 徹 (Ⅳ)	熊野 清彦 (Ⅴ)	関根 二郎 (Ⅵ)	長谷川隆史 (Ⅶ)	内田 亮 (電機)
小平 真次 (Ⅳ)	小泉 哲之 (Ⅴ)	田村 知久 (Ⅵ)	浜口 正俊 (Ⅶ)	小川 尚記 (電機)
神崎 実 (Ⅳ)	小山 正泰 (Ⅴ)	高須 義雄 (Ⅵ)	樋口 宗治 (Ⅶ)	梶原 紘嗣 (電機)
坂原 義夫 (Ⅳ)	佐藤 栄司 (Ⅴ)	高橋 通彦 (Ⅵ)	緑川 文男 (Ⅶ)	佐藤 裕紀 (電機)
清水 淳次 (Ⅳ)	境 祐司 (Ⅴ)	竹村 和彦 (Ⅵ)	横井 太一 (Ⅶ)	白石 喜憲 (電機)
清水 俊亮 (Ⅳ)	澤野 守 (Ⅴ)	塚越 初雄 (Ⅵ)	横関 秀俊 (Ⅶ)	鈴木 康之 (電機)
篠崎 國雄 (Ⅳ)	三枝 越夫 (Ⅴ)	次田 誠 (Ⅵ)	青木 功 (Ⅵ/Ⅶ)	武田 圭二 (電機)
柴 忠敏 (Ⅳ)	清水 博之 (Ⅴ)	手塚 辰保 (Ⅵ)	大井 宏友 (Ⅵ/Ⅶ)	松井菜月希 (意建)
鈴木 郁夫 (Ⅳ)	須藤 邦昌 (Ⅴ)	寺沢 賢一 (Ⅵ)	君島 堅一 (Ⅵ/Ⅶ)	山崎 将司 (意建)
鈴木 千春 (Ⅳ)	善場 研也 (Ⅴ)	徳江 雅宏 (Ⅵ)	菅原 勝彦 (Ⅵ/Ⅶ)	近江 貴仁 (総工)
鈴木 孝志 (Ⅳ)	田中 満 (Ⅴ)	中澤 克紀 (Ⅵ)	永野 真臣 (Ⅵ/Ⅶ)	亀川 祥平 (総工)
相馬 敦郎 (Ⅳ)	高澤 祐 (Ⅴ)	中島 正晴 (Ⅵ)	沼本 格 (Ⅵ/Ⅶ)	齋藤 頼 (総工)
田中 健吾 (Ⅳ)	高月 健一 (Ⅴ)	糠沢 隆 (Ⅵ)	東 哲司 (Ⅵ/Ⅶ)	境 健太郎 (総工)
田村 一男 (Ⅳ)	滝澤 文彦 (Ⅴ)	糠沢 公子 (Ⅵ)	池谷 友仁 (Ⅷ)	松波 明里 (総工)
高田 浩章 (Ⅳ)	竹田 和俊 (Ⅴ)	野呂伊佐美 (Ⅵ)	倉持 匠弘 (Ⅷ)	宮澤 宏輝 (総工)
高橋 豊 (Ⅳ)	橘 宗昭 (Ⅴ)	林 努 (Ⅵ)	佐々木 聡 (Ⅷ)	堀田 明裕 (職員)
高橋 勉 (Ⅳ)	鶴田 利彦 (Ⅴ)	春田 昌宏 (Ⅵ)	佐々木 宏 (Ⅷ)	
近岡 宏 (Ⅳ)	内藤 季和 (Ⅴ)	樋野 栄一 (Ⅵ)	西岡 潤二 (Ⅸ)	
戸嶋 禮助 (Ⅳ)	中村 幸男 (Ⅴ)	船戸 広義 (Ⅵ)	柳 昭男 (Ⅸ)	
中村巳三雄 (Ⅳ)	野上 哲雄 (Ⅴ)	細渕 安弘 (Ⅵ)	安藤 幸次 (Ⅹ)	
中村 孝広 (Ⅳ)	畠 好太郎 (Ⅴ)	正木 健一 (Ⅵ)	岩井 玲子 (Ⅹ)	
永岡 正敬 (Ⅳ)	藤本 克宏 (Ⅴ)	村上 隆 (Ⅵ)	江田 隆正 (Ⅹ)	
長野 浩俊 (Ⅳ)	細井 映司 (Ⅴ)	柳沢 栄二 (Ⅵ)	尾崎 誠 (Ⅹ)	
二宮 功 (Ⅳ)	三浦 恵美 (Ⅴ)	山田 義彦 (Ⅵ)	喜美候部継示 (Ⅹ)	
西塚 晶彦 (Ⅳ)	三好 敬 (Ⅴ)	山高 修一 (Ⅵ)	白石 雅士 (Ⅹ)	

100周年記念事業寄附者一覧

令和5年4月1日～令和6年3月31日

※お名前のみ掲載しております。

※振込用紙のお名前の公表の有無について未記入の方のお名前は掲載しておりません。予めご了承ください。

■120口■	■10口■	武田 圭二	末光 裕治	比田井 裕	茅島 正吉	■1口■
上松 敬禧	平田 忠	鈴木 誠	永野 真臣	増田 正巳	茅島恵美子	吉田 英雄
■100口■	杳掛 正一	山田 明弘	安達 幸夫	中澤 大地	中澤 大地	半田 康紀
松谷 貫司	大久保盛也	賀井伸一郎	高橋 盛広	佐々木裕幸	廣瀬 喜明	鈴木 千春
杉森 由章	戸崎 祐美	嶋田 涉	岸本 義幸	■4口■	相馬 一朗	桑田 直輝
吉田 幸司	下里 剛	小熊 誠次	安齋 利典	水野 晃一	菊池 健二	成田 英雄
玉木 高夫	大林 和彦	西川 悟	■5口■	■3口■	田中 満	斎藤 晴夫
■50口■	加藤 幸三	内河 正興	織茂 公孝	田中 健吾	小原 健司	淡路 延也
海老原吉弘	岩崎伊左夫	石井 尚文	手塚 辰保	小林 孝至	阿部 隆廣	増田 俊一
■20口■	山本 直樹	石川 輝明	山田 憲司	大澤 隆男	成川 攻	岡野 直美
鎌田 成之	大井 宏友	関口 洋一	宮内 愨	■2.5口■	永岡 正敬	
土屋 元彦	沼野 博文	堀田 祐司	古作 康幸	砂原 一夫	矢地 竹男	
■11口■	小川 秀司	北村 孝司	安達 博一	■2口■	須山 潤一	
下知 一皓	近藤 清彦	朝富 良次	川口 晃平	濱田 規寛	佐藤 栄司	

コース等名称と同窓会部会の対応について

令和6年度情報・データサイエンス学部設置によるコース等名称と対応する部会、旧学科等は以下のとおりです。

(※㊦は工学部を、㊧は情報・データサイエンス学部を示す。)

コース等名称	対応部会	対応する旧学科等
㊦建築学コース	第II部会	木材・建築・デザイン工学科建築系
㊦都市工学コース ㊦都市環境システムコース	第X部会	都市環境システム
㊦デザインコース	第I部会	図案・彫刻・造形・意匠・デザイン工学科意匠系
㊦機械工学コース	第III部会	金属・精機・機械・機械第二・電子機械工学科機械系
㊦医工学コース	第XI部会	メディカルシステム
㊦電気電子工学コース	第IV部会	電気・電子・電気電子・電子機械工学科電気電子系
㊦物質科学コース	第XII部会	ナノサイエンス
㊦共生応用化学コース	第V,IX部会	工業化学・合成化学・応用化学・機能材料工学・物質工学
㊦情報工学コース ㊧データサイエンスコース ㊧情報工学コース	第VI, VII部会 第VIII部会	写真・印刷・画像・画像応用・情報画像工学科画像系・画像科学 情報・情報画像工学科情報系・情報画像学科

工学部創立100周年記念事業について

■工学部創立100周年記念事業の経緯

千葉大学工学部の前身は、1921（大正10）年12月に、官立専門学校として東京市新芝町（現在の港区田町）に設けられた「東京高等工藝学校」です。よって、2021年には工学部は創立100周年を迎えました。

工学部と工学同窓会は共同で、工学部創立100周年記念事業を企画しました。本来なら、2021年度に記念事業を実施するところですが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して2022年5月21日（土）の総会において、誰もが安心して会食を伴う記念祝賀会に出席できるようにするまで、延期することを決定しました。2023年5月8日（月）に新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同等の5類感染症に引き下げられたことから、2024年6月1日（土）の総会において、2024年12月7日（土）に記念式典等を開催することを決定しました。寄附金の募集も実施しておりまして、2024年7月末で約2千万円（目標額3千万円の約67%）です。2025年3月末まで募集しますので、さらなるご支援をお願いいたします。

■記念式典・記念講演会・記念祝賀会のご案内

千葉大学工学部創立100周年記念行事を下記のとおり開催します。皆様お誘いあわせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

1. 記念式典・記念講演会

日 時：2024年12月7日（土）13：00～16：00

会 場：（受付）けやき会館1階ホール、

（式典・講演会）けやき会館1階大ホール

受 付：13：00～13：30

記念式典：13：30～14：00

記念講演会：14：10～16：00（休憩：15：00～15：10）

(1) 藤田 誠先生

題目：自己組織化に魅せられて

(2) 宮下芳明先生

題目：「味覚メディア」の開拓

2. 記念祝賀会

日 時：2024年12月7日（土）17：00～19：00

会 場：ホテルスプリングス幕張

新館3階エメラルド

参加費：10,000円

（当日、記念式典の受付にて申し受けます。

祝賀会のみにお出席される方は、当日会場受けにて申し受けます。）

記念式典・記念講演会の会場から記念祝賀会の会場

への移動にはバスを用意します。

出席のお申し込みは、同封はがきにて2024年10月31日（木）までに事務局まで必着するようにお願いいたします。会場の都合のため、先着順にて締め切らせていただきます。

3. 記念講演会講師の紹介

(1) 藤田 誠（ふじた まこと）先生



1957年東京都生まれ。1980年千葉大学工学部合成化学科卒業。1982年同大学院合成化学専攻修士課程修了、同年相模中央化学研究所研究院。1987年東京工業大学工学博士。1988年千葉大学工学部助手、1991年同講師、1994年同助教授。1997年分子科学研究所助教授、1999年名古屋大学大学院工学研究科教授、2002年東京大学大学院工学系研究科教授、2023年同卓越教授。2000年日本化学会学術賞、2001年日本IBM科学賞、2004年アイザット・クリステンセン賞、2009年文部科学大臣表彰科学技術賞、2012年トムソン・ロイター第3回リサーチフロントアワード、2013年日本化学会賞、同年Arthur C. Cope Scholar Award（アメリカ化学会賞）、2014年紫綬褒章、2016年内藤記念科学振興賞、2018年ウルフ賞化学部門、2019年恩賜賞・日本学士院賞、2020年中日文化賞、2023年朝日賞、他、受賞多数。2018年千葉大学特別栄誉教授（称号）、2023年東京大学特別栄誉教授（称号）。

(2) 宮下芳明（みやした ほうめい）先生



1976年イタリア・フィレンツェ生まれ。2001年千葉大学画像工学科卒業。2003年富山大学大学院教育学研究科修士課程修了（音楽教育）、2006年北陸先端科学技術大学院大学大学院にて博士号（知識科学）を取得、優秀修了者賞受賞。2007年明治大学理工学部准教授、2014年明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科教授。総務省「異能vation」採択、「味わうテレビTTTV（Taste the TV）」を開発。第24回文化庁メディア芸術祭で「味覚メディアの夜明け」審査委員会推薦作品選出。電気ので減塩食の塩味を増強する食器「エレキソルト」をキリンホールディングスと共同開発、2023年内閣府日本オープンイノベーション大賞日本学術会議会長賞受賞。NTTドコモ、H2Lと味覚共有技術「フィールテック」を共同開発。2023年イグ・ノーベル賞（栄養学）受賞。

（100周年記念事業実行委員会委員長 小坏 成一）

千葉大学工学部創立100周年記念事業 ご寄附のお願い

「千葉大学工学部創立100周年記念事業」（前ページ）もご覧ください。創立100周年記念事業へのご寄附は本年度で終わりになります。目標金額は3千万円ですが、現在約2千万円です。どうかご協力いただけますようお願いいたします。

■寄附金について

- ・個人 1口 1,000円
(2口以上ご寄附いただければ幸いです。)
- ・法人 1口 10,000円
(10口以上ご寄附いただければ幸いです。)

■寄附の方法

100周年記念事業への寄附は、「千葉大学SEEDS基金」を通して行います。ここに集まった皆様からの寄附金が、100周年記念事業の諸経費への支出に充てられます。この度、この方法を採用した理由は、「千葉大学SEEDS基金」への寄附は「所得控除」（右記※1を参照ください。）が得られるためです。

寄附は、同封の「千葉大学SEEDS基金払込取扱票」を使用して、金融機関（※2）で振り込みください。これをもって100周年記念事業への寄附となります。

なお、SEEDS基金への寄附はクレジットカードを使用するの振り込みもできます。「千葉大学SEEDS基金」ホームページを使って、以下の手順で行ってください。この際、寄附金の用途を特定しないと100周年記念事業に使われないこととなりますのでご注意ください。

- (1)「千葉大学SEEDS基金」にアクセス
- (2)トップページ中央下部「寄附する」をクリック
- (3)「クレジットカードによるご寄附はこちら」をクリック
- (4)寄附目的のプルダウンから「個別のプロジェクトへの支援」を選択
- (5)支援先のプルダウンから「工学部創立100周年記念事業への支援」を選択

■寄附の特典

- ・個人で10口（10,000円）以上ご寄附いただいた方には「工学部100年史」（仮称）を贈呈します。
- ・個人で100口（100,000円）以上ご寄附いただいた方、

ならびに法人で50口（500,000円）以上ご寄附いただいた場合は、本学内に設置の銘版にご芳名を掲げます。

※1【寄附金に対する所得控除（免税措置）】

「千葉大学SEEDS基金」への2,000円を超える寄附金は、確定申告をすることで、寄附金額から2,000円を差し引いた額が、総所得から控除されます。送金後に大学から領収書が送られますので、確定申告の際にご利用ください。お住まいの都道府県・市町村によっては、所得税のほか住民税の「税額控除」が受けられます。当該の都道府県・市町村にお問い合わせください。

なお法人の場合の寄附金は、全額損金算入が可能です。

※2 次の金融機関では払込（振込）手数料が無料になります。郵便局（ゆうちょ）、千葉銀行、千葉興業銀行、京葉銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行。

※3【個人情報の取り扱いについて】

寄附により取得した個人情報につきましては、本学からの領収書とお礼状の送付、寄附者の顕彰に関する業務のほか、本学から寄附者にご連絡する必要がある場合にのみ利用します。

【お問い合わせ先】

千葉大学工学同窓会事務局内
「千葉大学工学部創立100周年記念事業実行委員会」
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
TEL 043-254-6358（月水金10：30～16：30）
E-Mail：chiba-u.kogakudosokai@nifty.com
URL：http://chiba-kougaku-dosokai.jp

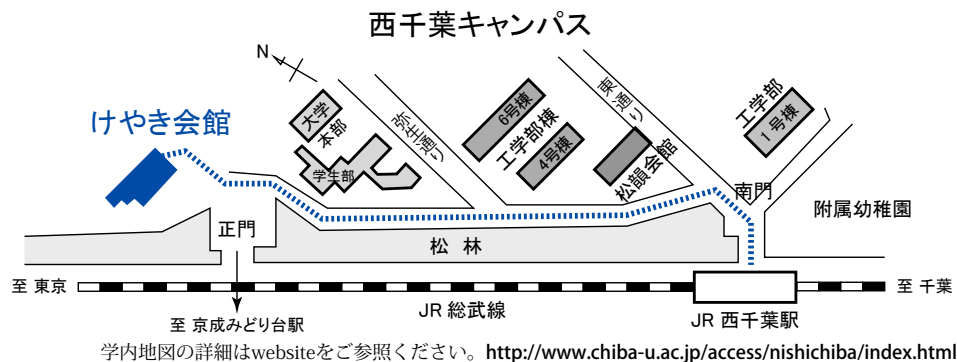
総会・懇親会のご案内

2025年度工学同窓会の総会および懇親会を下記のとおり開催いたします。皆様お誘いあわせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

- 日時** 2025年6月7日(土曜日) 受付 13:00より 総会 13:30~14:40
懇親会 15:00~17:00
- 会場** (受付) けやき会館・1階ホール (総会) けやき会館・1階大ホール
(懇親会) 生協食堂 (懇親会からご参加の方も、まずはけやき会館・1階ホールにお越しください。当日、ご案内します。)
- 会費** 2,000円(当日受付にて)

出席のお申し込みは、同封はがきにて2025年5月2日(金)までに事務局まで必着するようお願いいたします。



会費納入とご寄附のお願い

●年会費納入のお願い

平成6年度の総会で会則が改正され、平成6年度より、特別会員(同校、同学部現旧教員、ただし正会員を除く)以外の正会員ならびに会友の皆様へ、年会費2,000円を納入していただくことになりました。諸般の事情をご理解いただき、会費をご納入くださいます様、何卒、お願い申し上げます。

年会費は 2,000円です。

(※詳しくは本会報24ページをご覧ください。)

●ご寄附のお願い

ご寄附は同窓会運営費のほか、学生への支援、工学部への支援などに充てさせていただきます。

●年会費およびご寄附のご送金は

両方とも、同封いたしました郵便振替用紙にてお願いいたします。

事務局からのお知らせ——おたより募集と住所等変更連絡のお願い

●会員の皆様からのおたよりを募集しています。

同窓生の皆様のための会報とするため、編集委員会では、会員の皆様からのおたよりを随時募集しております。同期会の報告や、皆様の近況、お仕事ぶりなどのお便りを、是非、事務局までお寄せください。誌面の許す限り、掲載させていただきたいと思っております。

●住所、勤務先、電話番号などが変わられた方はお手数ですが、同封のはがき、ホームページ上またはFAXで、同窓会事務局までご一報ください。

●当同窓会では、会員名簿の管理、発行は㈱サラトに委託しております。最近、㈱サラト以外の業者からも、名簿刊行の案内がありますが、これは当会とは一切関係ありませんので、ご注意ください。

会報編集委員：下村義弘、島田侑子(委員長)、中田敏是、大森達也、榊飛雄馬、難波一輝、劉ウエン、平田慎之介、柴 史之

発行 千葉大学工学同窓会 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学工学部松韻会館内
電話/FAX 043-254-6358 (月水金 10時30分~16時30分)
E-mail: chiba-u.kogakudosokai@nifty.com

印刷 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172番地 電話079-284-1380 FAX079-224-7746